

交通費助成制度（生きいきクーポン券交付事業）及び
高齢者福祉施策のあり方に関する市民意識調査
結果報告書

令和7年9月 生駒市

目 次

I	調査の概要	1
	（１）調査の目的	1
	（２）調査対象	1
	（３）調査期間・方法	1
	（４）回収状況	1
II	調査結果	2
	1. 属性	2
	設問 1 回答者の属性について	2
	2. 高齢者交通費助成制度について	5
	設問 2 高齢者交通費助成制度の利用について	5
	設問 3 高齢者交通費助成制度についての考え	15
	設問 4 より効果的な高齢者福祉施策について	19
	設問 5 自由意見	28
III	調査票	30

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

高齢化が進む中、介護予防や認知症予防にかかる普及啓発や効果的な施策の展開が必要とされています。本調査は、これまで74歳以上の高齢者に一律に配布されてきた1万円分の電車、バス、タクシー等の交通費助成について、市民の考えを把握し、現行の制度のあり方を考える参考とするために実施しました。

(2) 調査対象

住民基本台帳から無作為抽出により、10・20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代以上について、生駒市の人口におけるそれぞれの年代比率、男女比率に応じて実施しました。

(3) 調査期間・方法

令和7年4月30日から令和7年5月20日まで郵送およびオンラインによる配布・回収を行いました。

(4) 回収状況

配布数	回収数	回収率
3,000	1,324	44.1%

※注：グラフ中の「n」は、回答者数（実数値）を表しています。

構成比については、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

また、記述回答については、非該当等の記述も取り上げている（或いは該当しながら記述がない場合がある）ため、回答件数がグラフの数値と一致しない場合があります。

Ⅱ. 調査結果

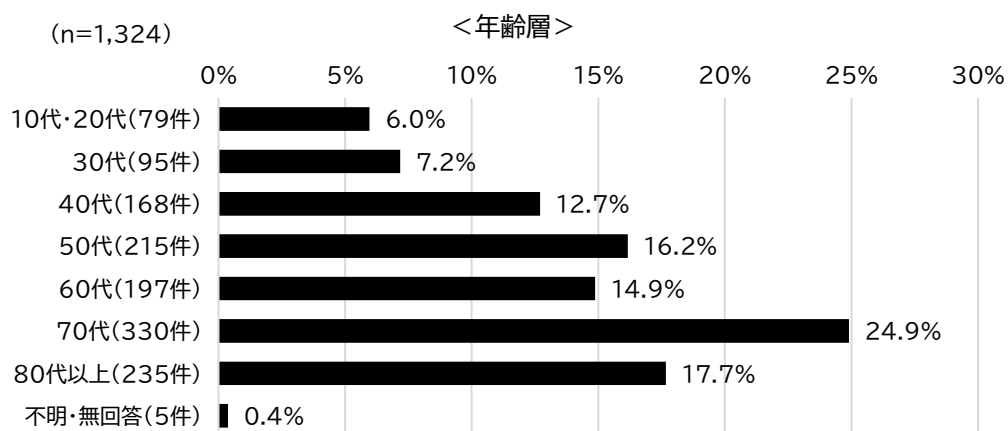
1. 属性

設問1 回答者の属性について

回答してくださるあなたご自身のことについてお聞きます。

(1) 年齢層

年齢層についてはグラフの通りで、「70代」が24.9%で最も多く、次いで「80代以上」17.7%、「50代」16.2%の順となっています。「10代・20代」が最も少なく6.0%に留まっています。

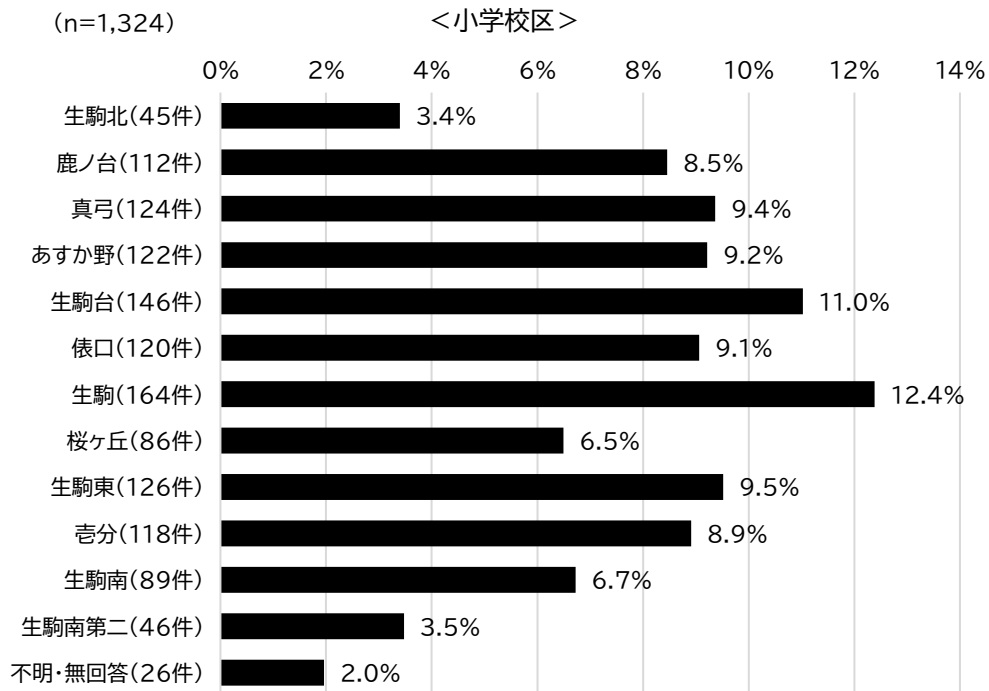


年齢層ごとの回答率はグラフの通りとなっています。

年齢層	配布数	有効回答数	有効回答率
10代・20代	356	79	22.2%
30代	314	95	30.3%
40代	468	168	35.9%
50代	574	215	37.5%
60代	419	197	47.0%
70代	495	330	66.7%
80代以上	374	235	62.8%
無回答・不明		5	
全体	3,000	1,324	44.1%

(2) 小学校区

回答者の小学校区別割合はグラフの通りとなっています。

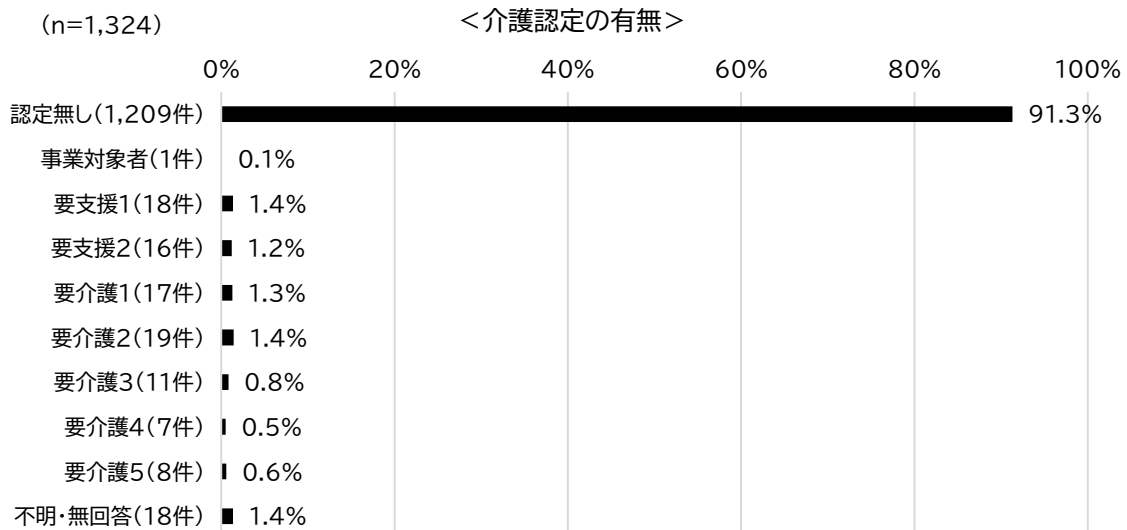


小学校区ごとの回答率はグラフの通りとなっています。

小学校区	配布数	有効回答数	有効回答率
生駒北小学校区	112	45	40.2%
鹿ノ台小学校区	230	112	48.7%
真弓小学校区	244	124	50.8%
あすか野小学校区	256	122	47.7%
生駒台小学校区	362	146	40.3%
俵口小学校区	316	120	38.0%
生駒小学校区	350	164	46.9%
桜ヶ丘小学校区	217	86	39.6%
生駒東小学校区	291	126	43.3%
壺分小学校区	278	118	42.4%
生駒南小学校区	177	89	50.3%
生駒南第二小学校区	167	46	27.5%
不明・無回答		26	
全体	3,000	1,324	44.1%

(3) 介護認定の有無

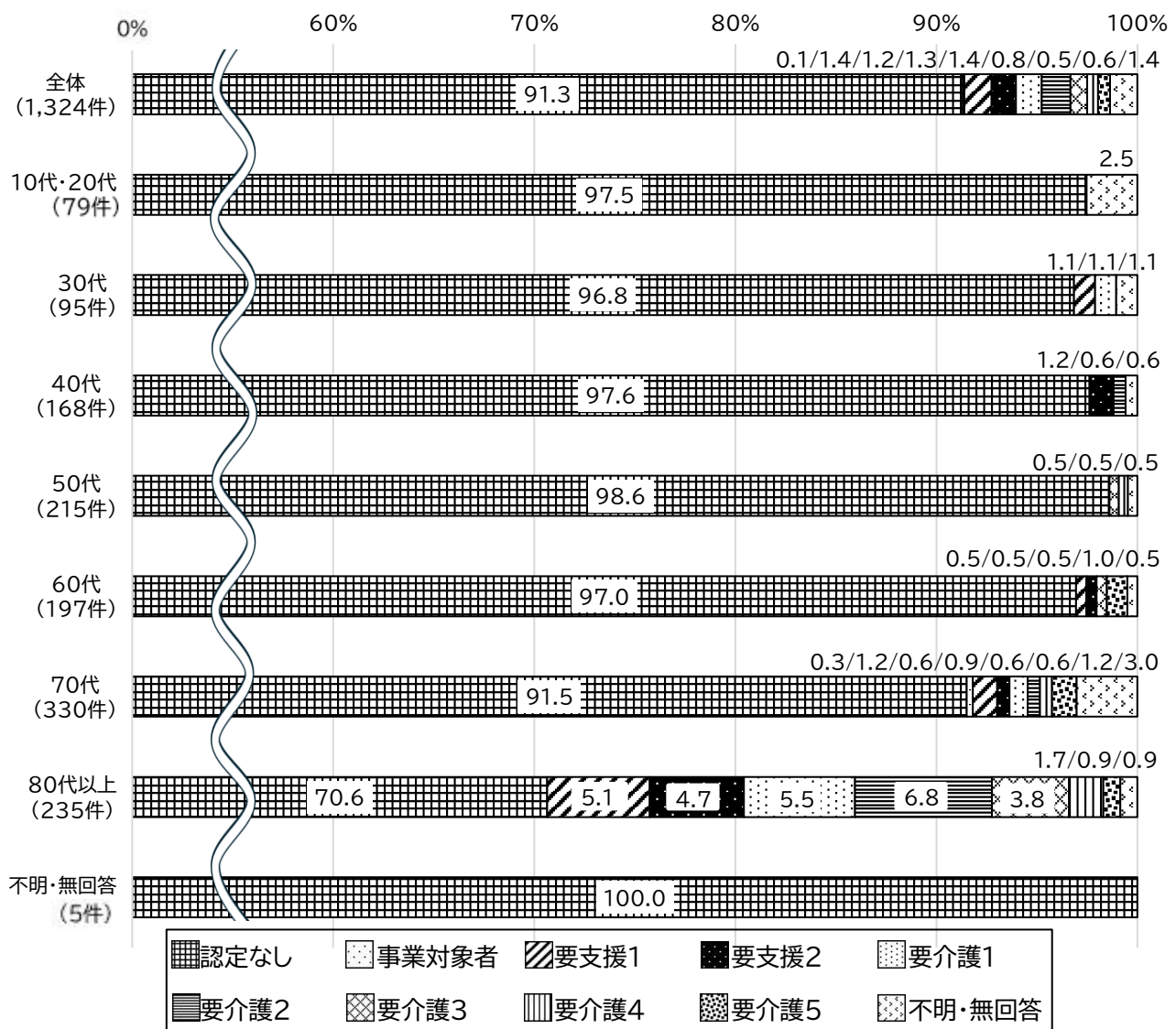
介護認定の有無についてはグラフの通りで、「認定無し」が91.3%を占めています。



◆年代別

年代別にみると、「80代以上」で介護認定を受けている割合が高く、その内訳は「要介護2」が6.8%、次いで「要介護1」が5.5%、「要支援1」が5.1%となっています。

(n=1,324)



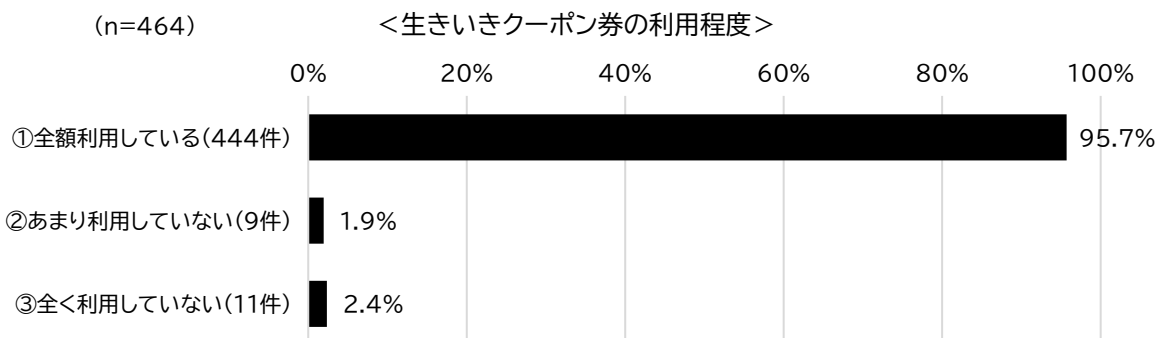
2. 高齢者交通費助成制度について

設問 2 高齢者交通費助成制度の利用について

生きいきクーポン券配布対象者（74 歳以上）の人にお聞きします。

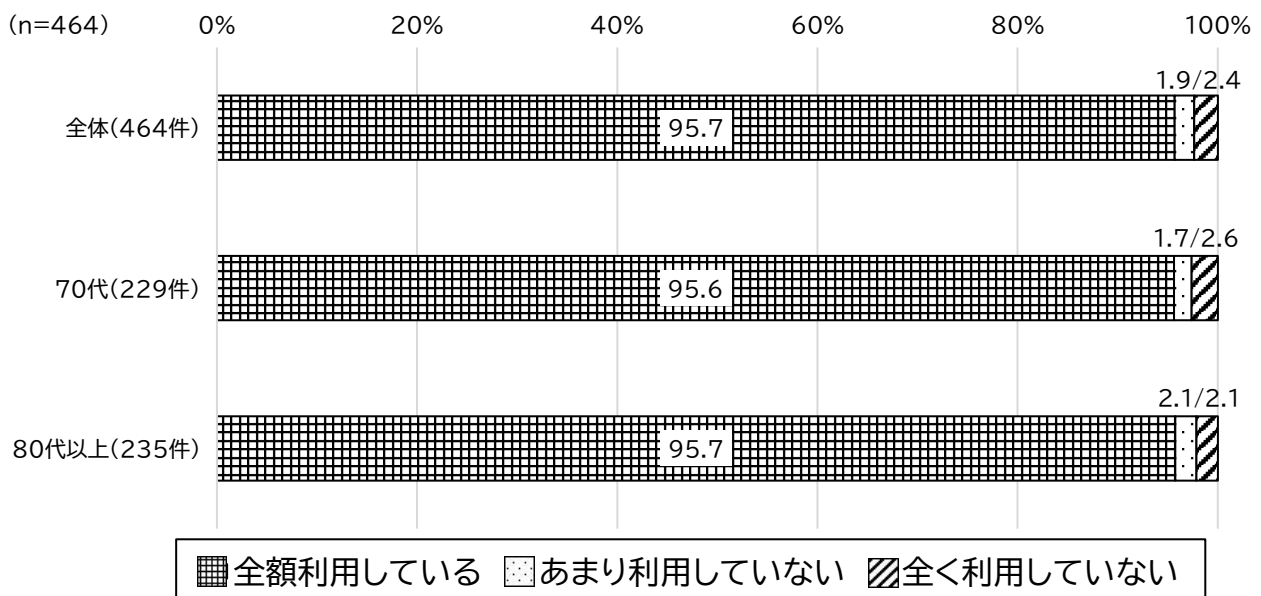
（1）生きいきクーポン券を、どの程度利用していますか。

「全額利用している」が95.7%で約 9 割を占めています。しかし、「あまり利用していない」1.9%、「全く利用していない」2.4%という回答もありました。



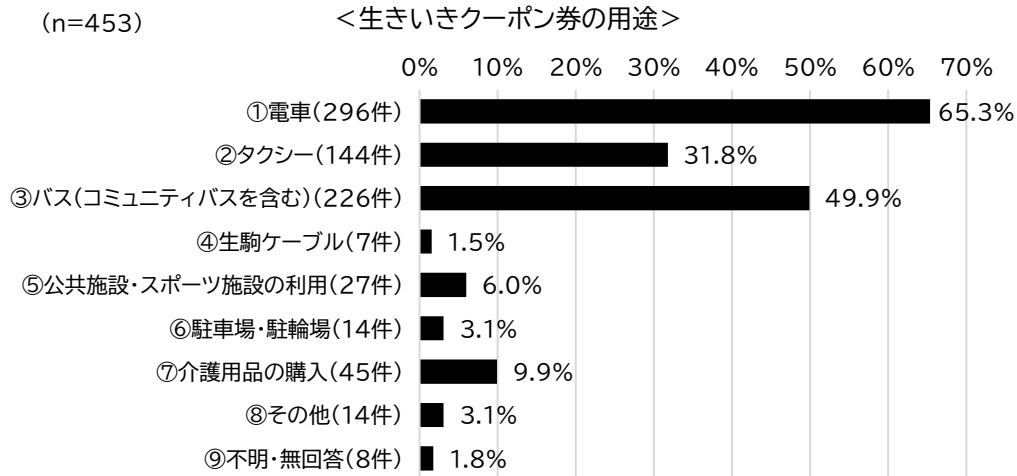
◆年代別（74 歳以上）

年代別にみると、「70 代」「80 代以上」ともに「全額利用している」が 9 割を超えており、高い割合となっています。



(2) 設問2の(1)で①と②と答えた人にお聞きします。どの交通費助成を選びましたか。

「電車」が65.3%で最も多く、次いで「バス（コミュニティバスを含む）」49.9%、「タクシー」31.8%の順となっています。

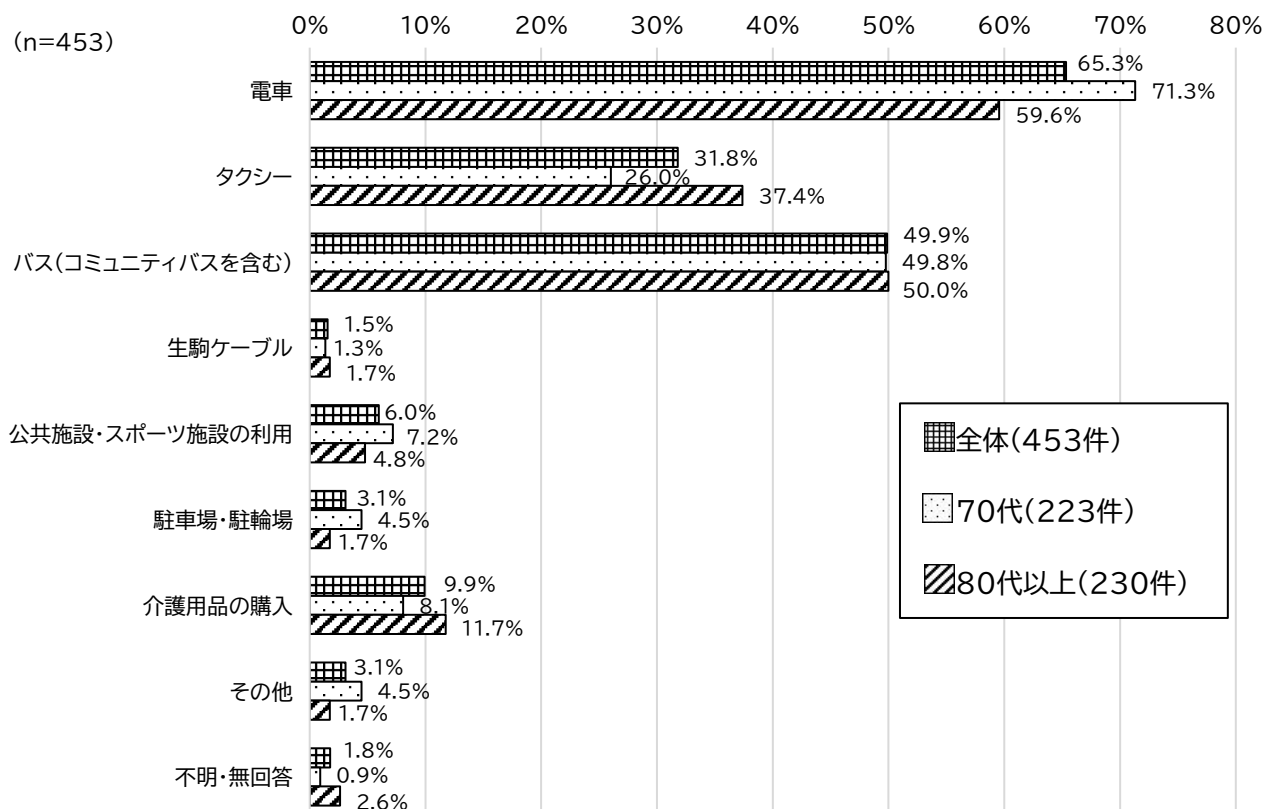


<その他の記述回答>

- ・コンビニ・スーパーでの買い物（5件）
- ・交通系カード(ICOCA)・チャージ（3件）
- ・音の花温泉
- ・訪問理容
- ・防災用品購入

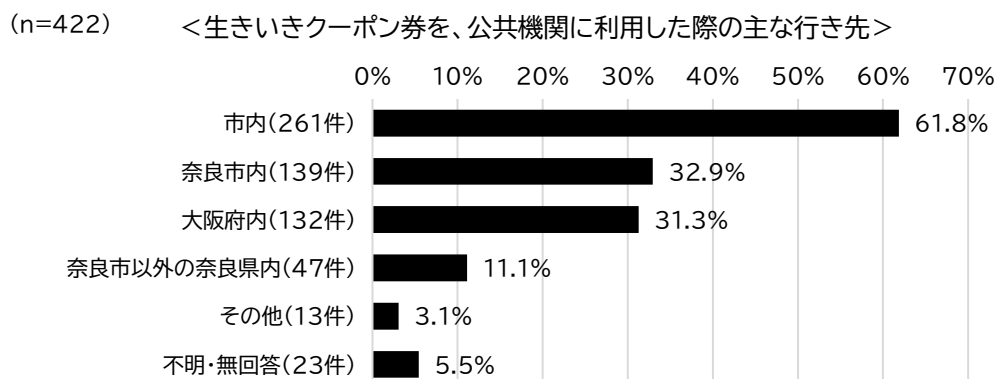
◆年代別（74歳以上）

年代別にみると、「電車」の割合が「80代以上」より「70代」の方が11.7ポイント高く、「タクシー」の割合は「80代以上」では「70代」より11.4ポイント高くなっています。



(3) 設問 2 の (2) で①～③と答えた人にお聞きします。公共交通機関を利用した際の主な行き先はどちらですか。

「市内」が61.8%で最も多く、次いで「奈良市内」32.9%、「大阪府内」31.3%となっています。「奈良市以外の奈良県内」については11.1%に留まっています。

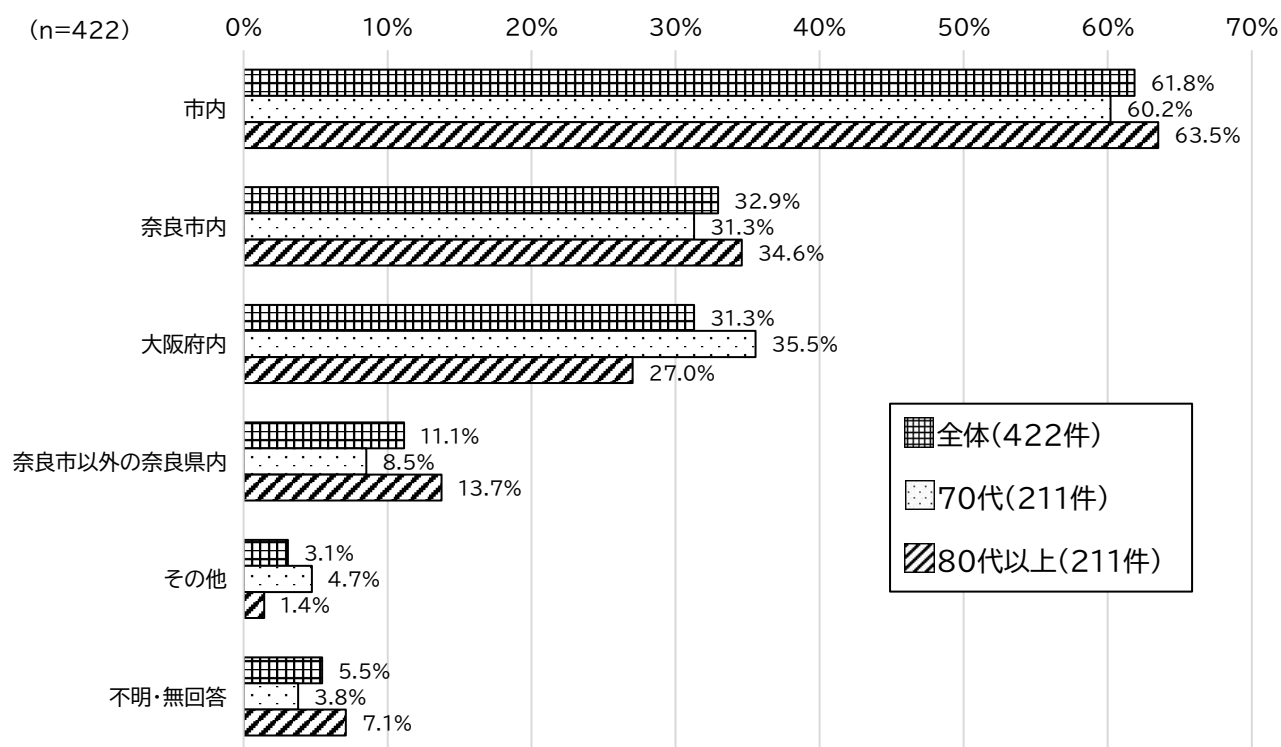


<その他の記述回答>

- ・京都 (6 件)
- ・病院 (3 件)
- ・兵庫 (1 件)
- ・たけまる号の移動内 (1 件)
- ・IC カードによる近鉄電車以外の公共交通機関の利用 (1 件)
- ・ICOCA の入金に充てて奈良市内、大阪府内、奈良市以外の奈良県内で利用 (1 件)

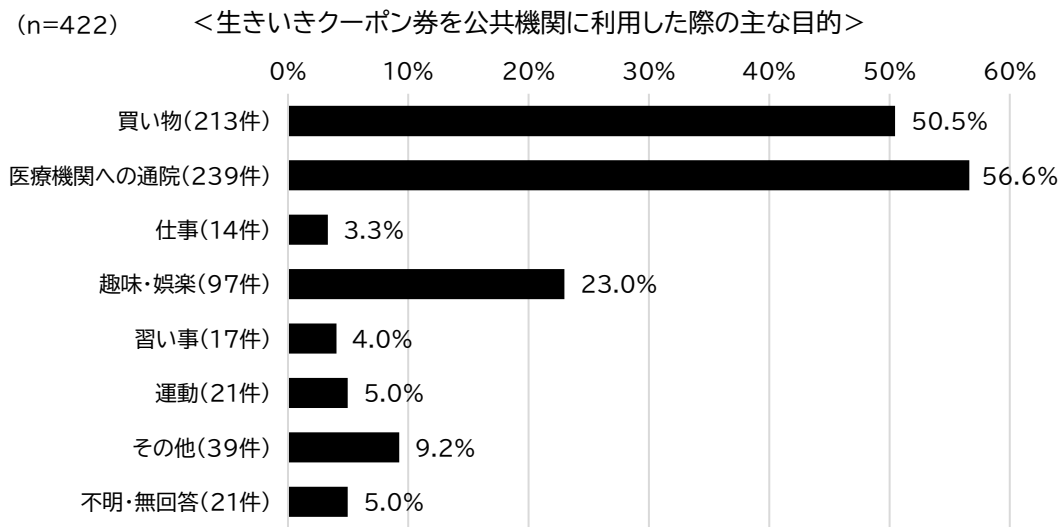
◆年代別 (74 歳以上)

年代別にみると、ともに「市内」が最も多いものの、「70 代」で「大阪府内」、「80 代以上」で「奈良市内」の割合がそれぞれ比較的高くなっています。



(4) 設問 2 の (2) で①～③と答えた人にお聞きします。公共交通機関を利用した主な目的はなんですか。

「医療機関への通院」が 56.6%で最も多く、次いで「買い物」50.5%、「趣味・娯楽」23.0%の順となっています。

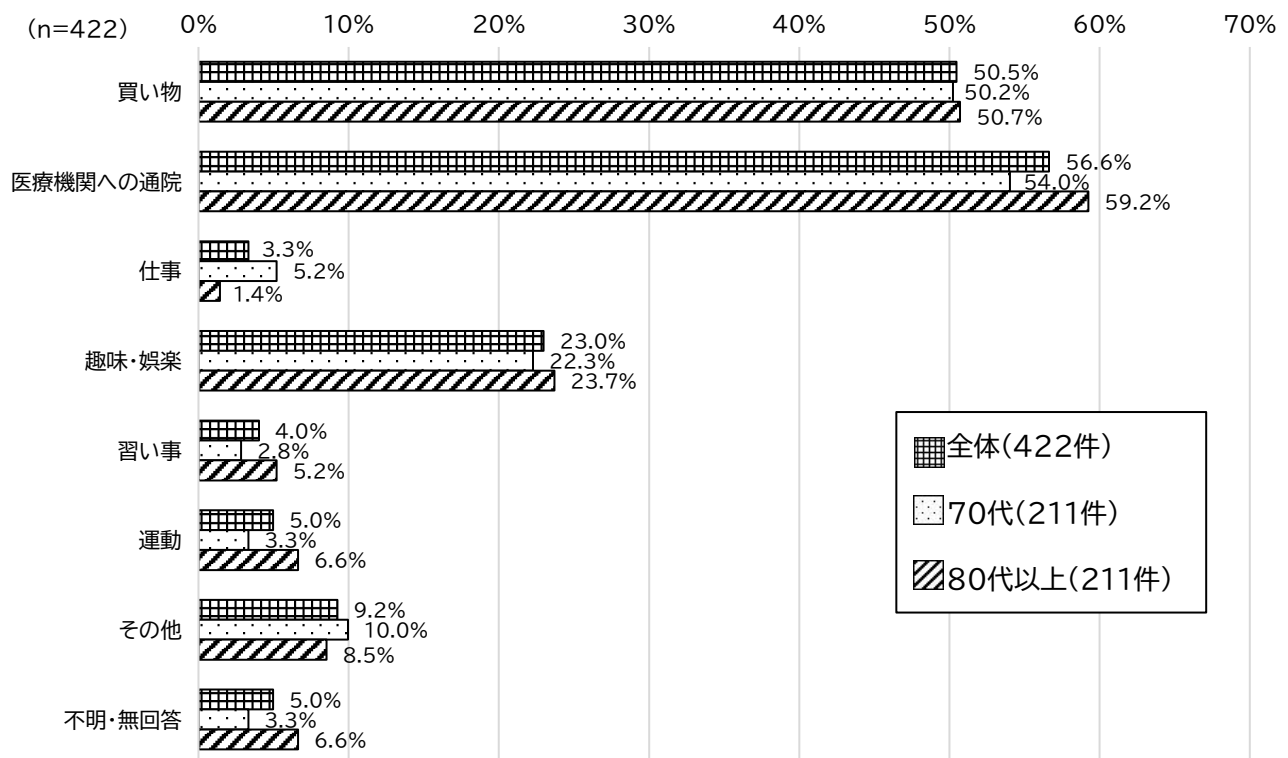


<その他の記述回答>

- ・会合・ボランティア・サークル活動等（6 件）
- ・知人との交流・訪問・同窓会等（5 件）
- ・参拝（5 件）
- ・お墓参り（3 件）
- ・子どもの家に遊びに行く（3 件）
- ・銀行（2 件）
- ・コミュニティバス市役所前
- ・スポーツジム利用
- ・食事
- ・旅行
- ・山ろく公園風呂
- ・駅への移動
- ・外出し、つかれたとき
- ・気分転換のための外出
- ・免許更新
- ・重い荷物を運ばなければならない時
- ・急用

◆年代別（74 歳以上）

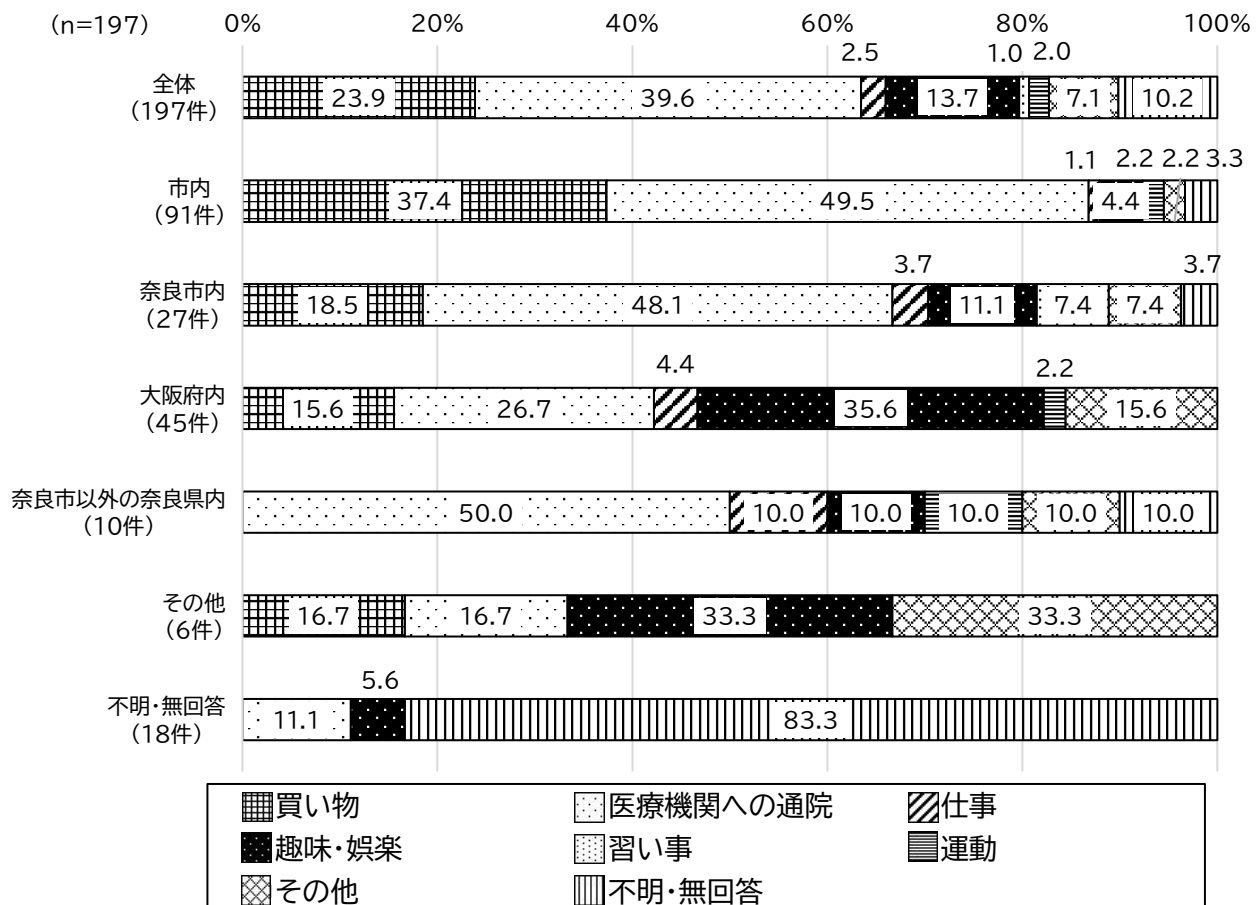
年代別にみると、「70 代」「80 代以上」ともに「医療機関への通院」が多くなっています。
また、「仕事」は、「70 代」の方がポイントが高くなっています。



◆主な行き先別

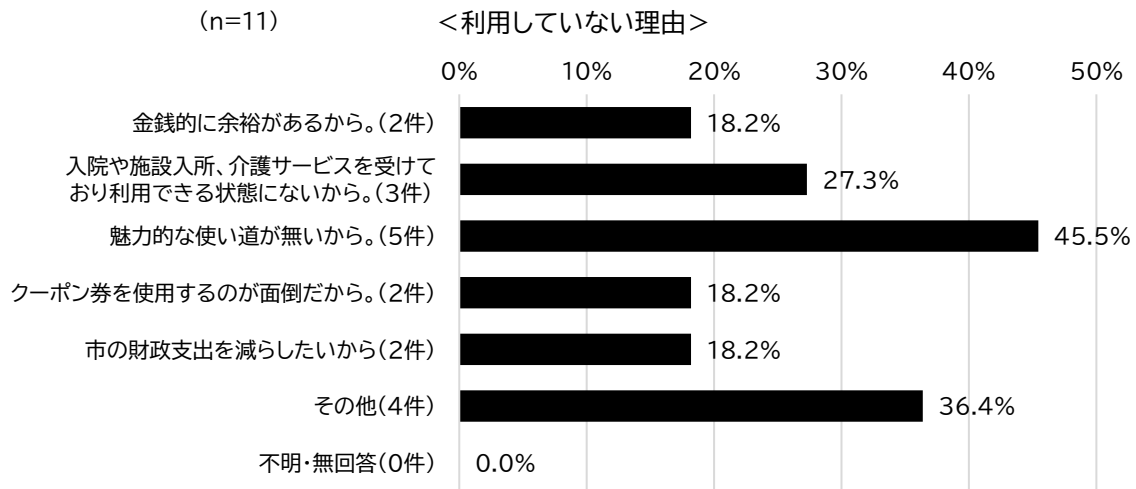
主な行き先別にみると、「市内」と「奈良市内」、「奈良市以外の奈良県内」では「医療機関への通院」が最も多くなっています。

また「大阪府内」では「趣味・娯楽」が最も多くなっています。



(5) 設問2の(1)で③を選んだ人にお聞きします。その理由はなぜですか。

「魅力的な使い道が無いから」が最も多く、45.5%となっています。

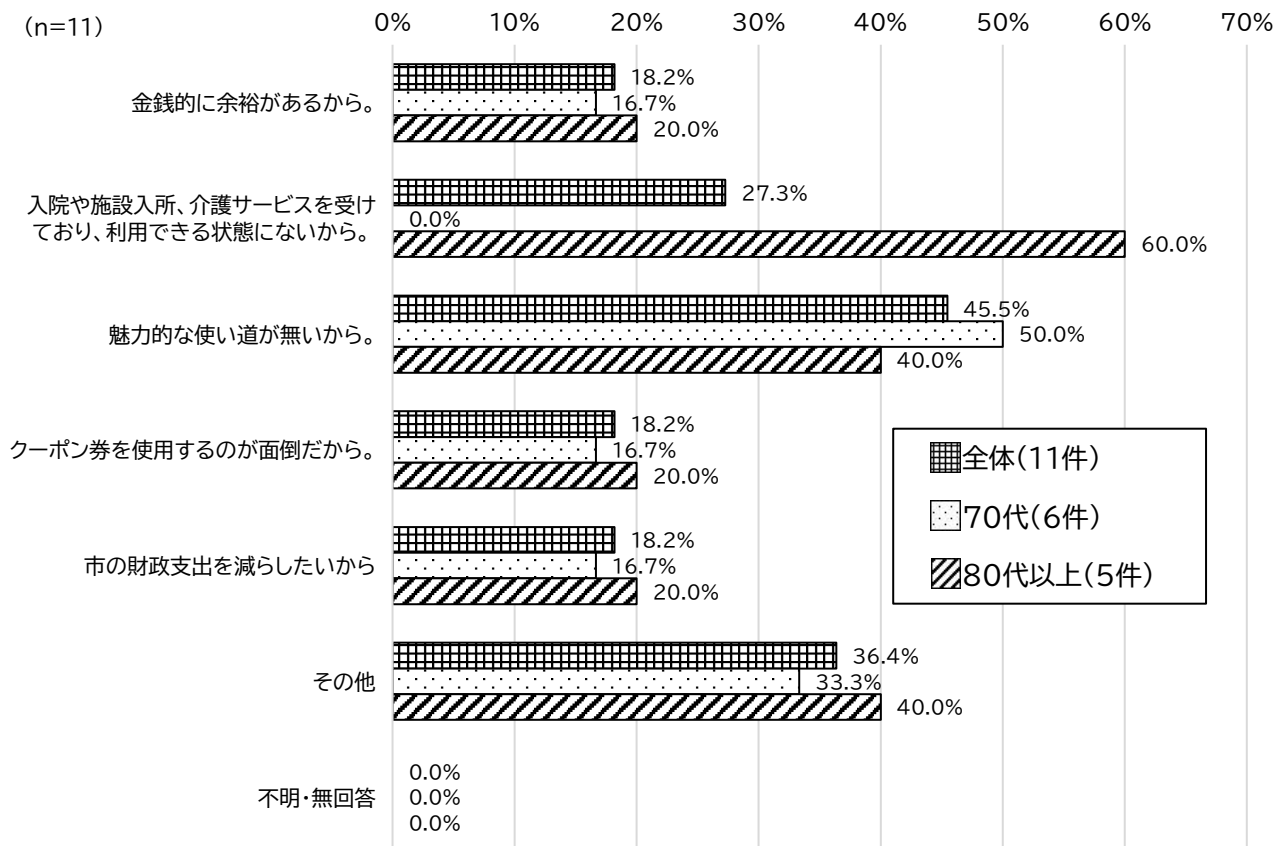


<その他の記述回答>

- ・転居等によりクーポンの存在を知らなかった (3件)

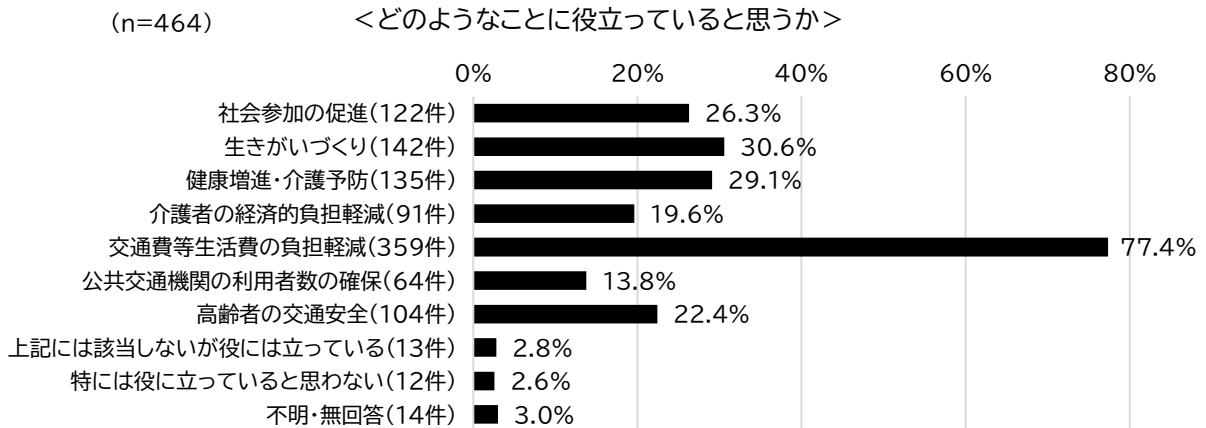
◆年代別 (74歳以上)

年代別にみると、「70代」では「魅力的な使い道が無いから」が50.0%と最も高いポイントとなっています。また、「80代以上」では「入院や施設入所、介護サービスを受けており、利用できる状態にないから」が60.0%と多くなっています。



(6)「生きいきクーポン券」はどのようなことに役立っていると思いますか。

「交通費等生活費の負担軽減」が77.4%と最も多く、次いで「生きがいつくり」30.6%、「健康増進・介護予防」29.1%の順となっています。

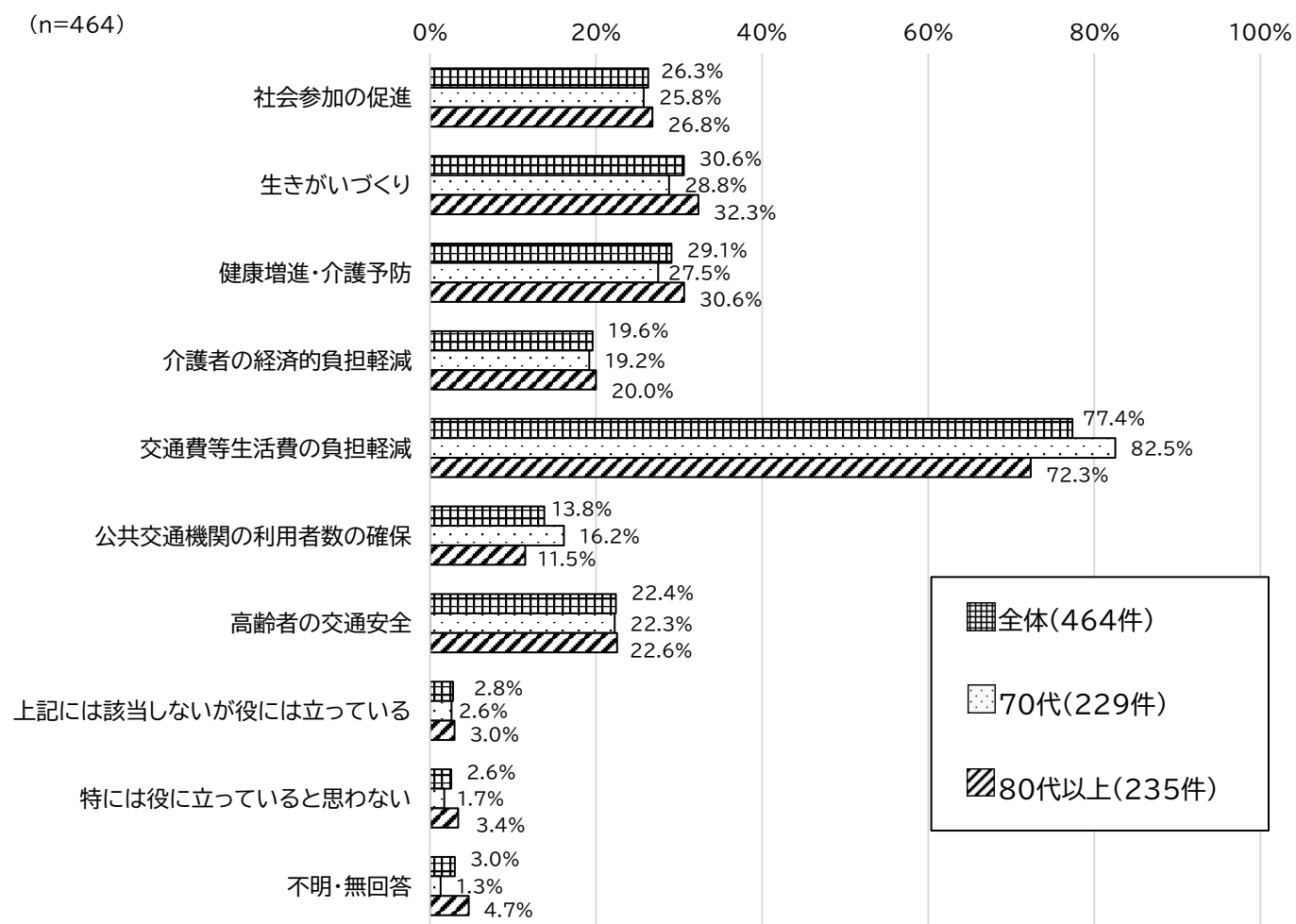


<選択肢には該当しないが役には立っているの記述回答>

- ・コンビニ・スーパー等で買い物ができる（4件）
- ・受診・診察（2件）
- ・交通機関が使えない地域、乗換えしないといけない場合等、人によっては利用する場所がなかったりと不便（2件）
- ・電車に乗ると開放的になり、いろんな物を見たりするとリフレッシュできた気分になる
- ・介護用品購入負担軽減
- ・年金が少ないためものすごく役立っている
- ・脳のトレーニング
- ・歩行困難のためタクシー以外一緒に付き添ってもらえないため

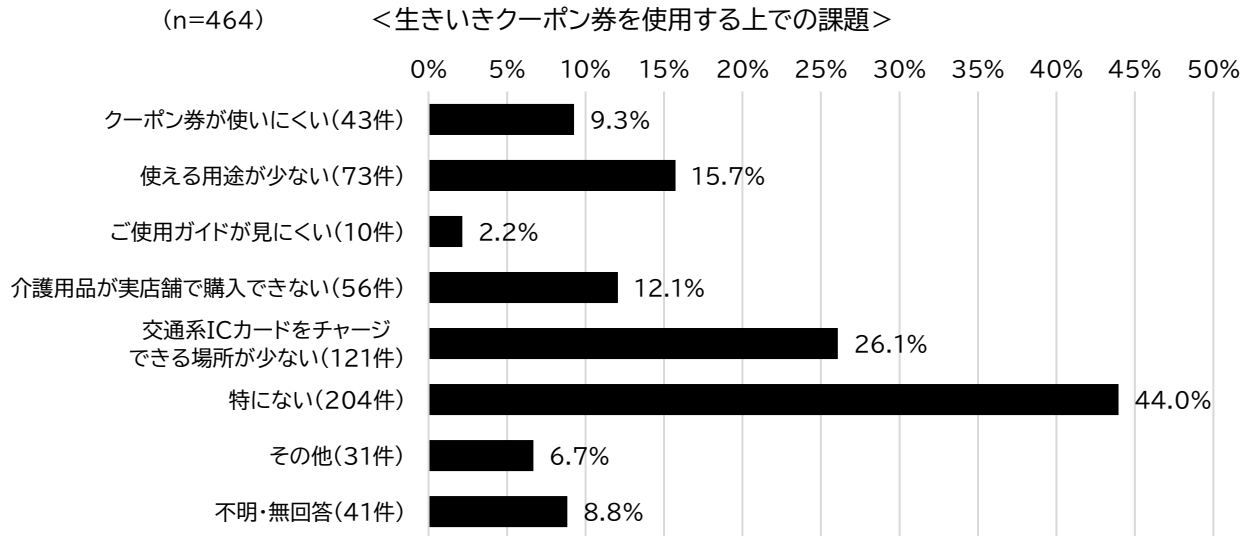
◆年代別（74 歳以上）

年代別にみると、「70 代」「80 代以上」ともに「交通費等生活費の負担軽減」が最も高いポイントとなっています。



(7)「生きいきクーポン券」を使用する上での課題を教えてください。

「特になし」が 44.0%と最も多く、次いで「交通系 IC カードをチャージできる場所が少ない」が 26.1%、「使える用途が少ない」 15.7%の順となっています。

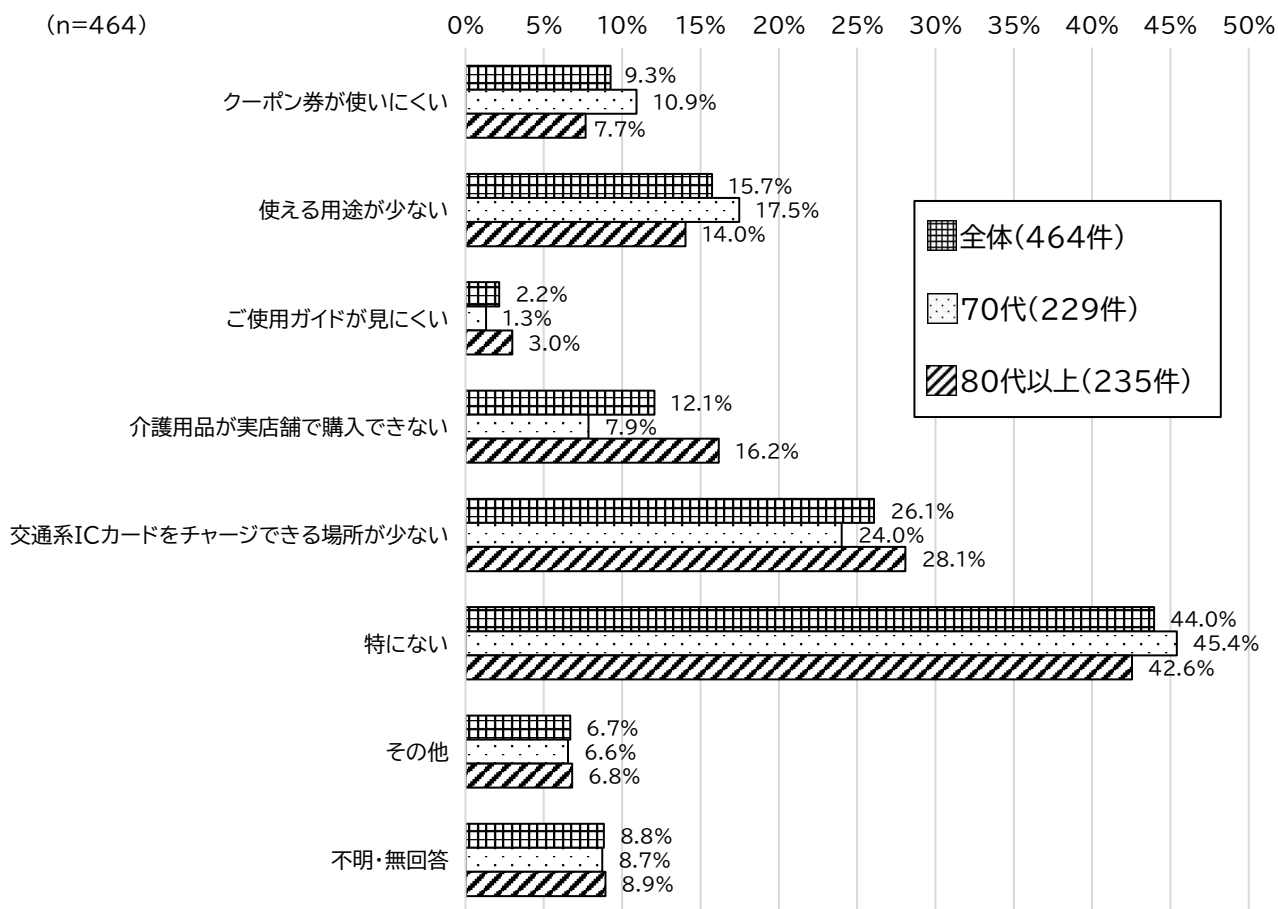


<その他の記述回答>

- すごくありがたい、今のままで充分である（7 件）
- 介護用品等の価格が高過ぎる、実店舗の方が安い（3 件）
- 金額が少ない（3 件）
- ICOCA にチャージして楽しく有効に活用できている（2 件）
- チャージ金額が決まっているのが不便（2 件）
- 使用期間が短い、期間を変更（6 ヶ月から 1 年）してほしい（2 件）
- パンフレットでの介護用品購入は問題が多い。過去に購入したが、いざ使用すると使いにくさがあり、結局使っていない。近商等に現物を展示する等考えるのはどうでしょうか
- 介護用品が特定の業者でしか使えない
- 転入したばかりで制度に関する案内がない
- 電車などの初乗り運賃より 500 円は高いため、使いにくいのでは
- 一人暮らしのお年寄りにはスマホ等にチャージする方法がうまく理解できないのでは
- 奈良市のように変更されてほしい
- 日常の買い物に使えるようにしてほしい
- 不要なクーポン券の買取制度が欲しい
- 娘にお願いしないと使いにくいので面倒
- 利用経験がないためわからない
- 必要なし

◆年代別（74 歳以上）

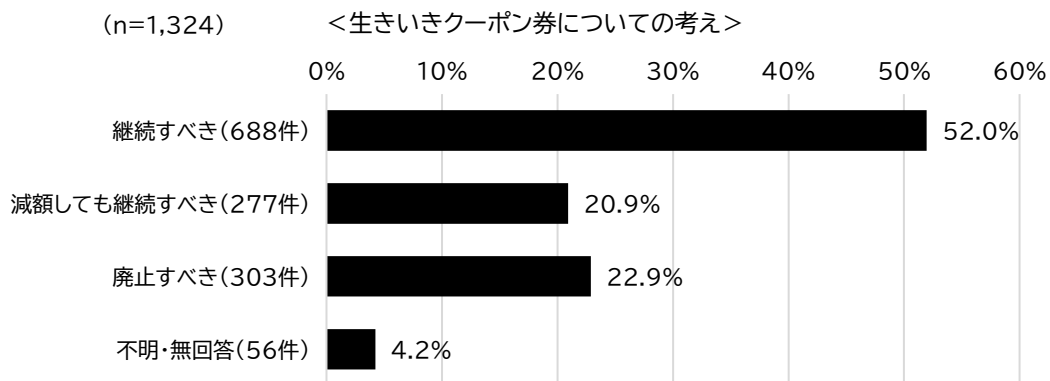
年代別にみると、「70 代」「80 代以上」ともに「特にない」が最もポイントが高く、次いで「交通系 IC カードをチャージできる場所が少ない」が高くなっている。



設問 3 高齢者交通費助成制度についての考え

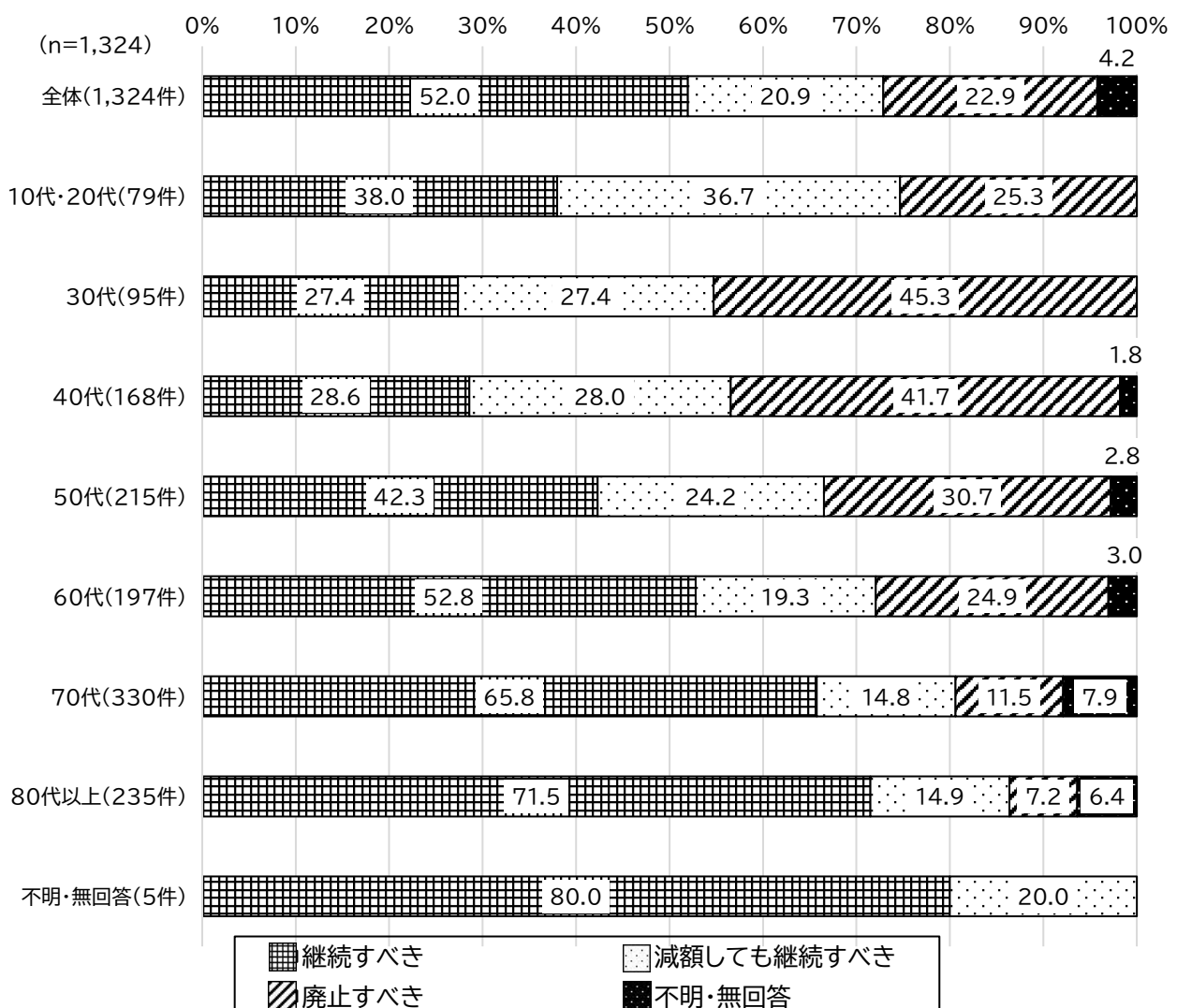
全ての人にお聞きします。「生きいきクーポン券」についてあなたの考えをご記入ください。

「継続すべき」が52.0%で最も多く、次いで「廃止すべき」が22.9%となっています。「減額しても継続すべき」に回答した人は20.9%でした。



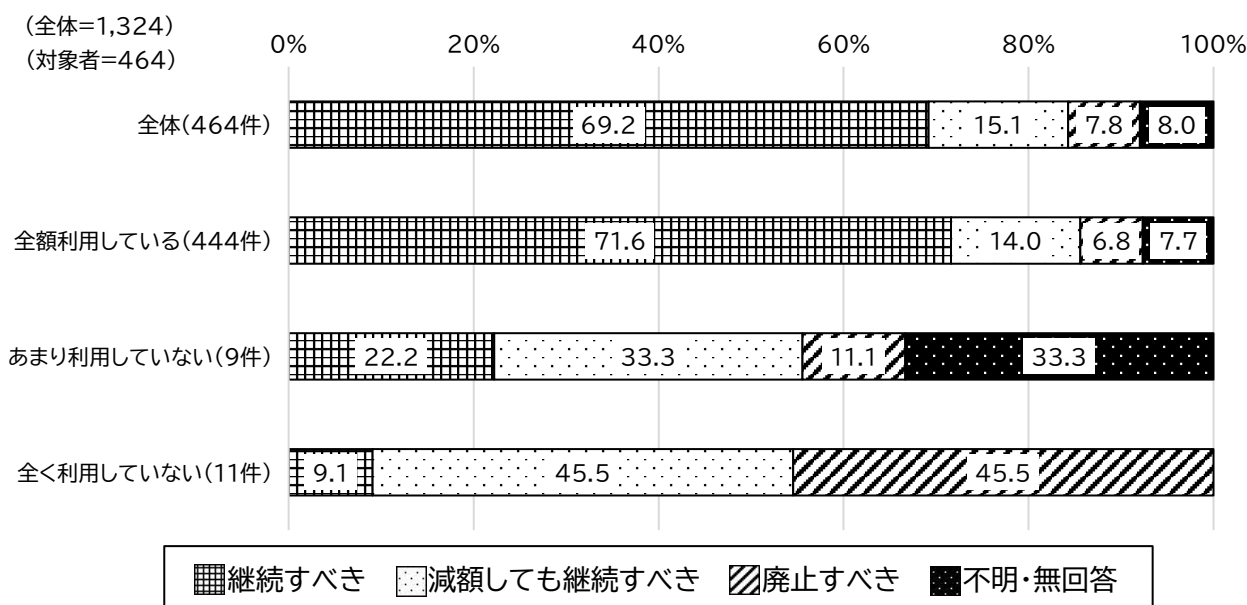
◆年代別

年代別にみると、「60代」「70代」「80代以上」は「継続すべきである」が50%を超えており、高い割合となっています。一方で「廃止すべきである」については、「30代」「40代」のポイントが高く、「30代」45.3%、「40代」41.7%となっています。



◆交通費助成対象者の利用別

交通費助成制度対象者の利用別にみると、「継続すべきである」について、「全額利用している」で71.6%と多くなっていますが、「あまり利用していない」は22.2%、「全く利用していない」が9.1%と大きな差があります。また、「廃止すべきである」については、「全く利用していない」で45.5%、「あまり利用していない」で11.1%、「全額利用している」で6.8%となっています。



<記述回答・継続すべき理由>

継続すべき理由についての記述回答では、経済的支援・負担軽減に有効という意見が190件、制度・政策に対する評価が159件、交通手段確保・移動支援に有効であるという意見が76件等寄せられました。以下内訳は下表の通りとなっています。

分類	記述内容	件数
経済的支援・負担軽減 (190件)	生活費・家計負担の軽減に役立っている	123件
	交通費の負担軽減	67件
制度・政策に対する評価 (159件)	制度を精査の上、継続希望	74件
	制度への肯定的評価・感謝の表明	67件
	高齢者・障がい者支援のための制度としての価値	14件
	税金としての納付を含めこれまでの社会貢献に対する還元	4件
交通手段確保・移動支援 (76件)	免許返納後の交通手段確保として必要	32件
	公共交通機関に利用でき、便利である	24件
	ICカード利用による交通利便性向上	13件
	地域特性（坂道等）による交通手段の必要性	7件
外出促進・社会参加 (72件)	外出機会の増加・外出意欲の向上	51件
	行動範囲拡大・活動促進に効果	12件
	高齢者の社会参加促進に寄与	9件
健康維持(39件)	健康維持・健康増進に寄与	25件
	介護用品購入支援	11件

	認知症・フレイル予防効果	3件
生きがい・精神面（27件）	生きがい作り・生き生きとした生活を支援	24件
	高齢者が安心して暮らせるために必要	3件
その他（5件）	地域活性化につながる	3件
	その他	2件

<記述回答・減額しても継続すべき理由>

減額しても継続すべき理由についての記述回答では、経済的支援・負担軽減に有効だという意見が49件、高齢者福祉・支援継続に関する意見が39件、交通手段確保・移動支援に関する意見が38件等の意見が寄せられました。以下内訳は下表の通りとなっています。

分類	記述内容	件数
経済的支援・負担軽減 （49件）	生活費・家計負担の軽減に役立っている	35件
	交通費の負担軽減	9件
	介護用品購入費の負担軽減に活用	5件
高齢者福祉・支援継続 （39件）	高齢者支援制度としての継続必要性	38件
	税金としての納付を含めこれまでの社会貢献に対する還元	1件
交通手段確保・移動支援 （38件）	免許返納促進や免許返納者への移動支援	25件
	地域特性（坂道等）による交通手段の必要性	10件
	デマンドバス等他の交通手段の検討	3件
財政・公平性配慮 （36件）	財政状況を考慮した減額への理解	27件
	世代間公平性への配慮と子育て支援重視	9件
外出促進（23件）	外出機会の増加・外出意欲の向上	21件
	行動範囲拡大	2件
制度運用・改善提案 （22件）	対象者や使用用途限定による効率化	9件
	申請制の導入	8件
	デジタル化・IT活用による経費削減	5件
社会参加（18件）	社会参加促進に効果	10件
	健康維持・フレイル予防への寄与	8件
その他（5件）	行政とのつながりを感じられるなど感謝の意見	5件

<記述回答・廃止すべき理由>

廃止すべき理由についての記述回答では、制度設計・運用の問題に関する意見が65件、財政・経費に関する問題に関する意見が60件寄せられました。以下内訳は下表の通りとなっています。

分類	記述内容	件数
制度設計・運用の問題 （65件）	本来の目的と実際の使用用途が乖離している	30件
	交付対象者以外の家族等が使用している	15件

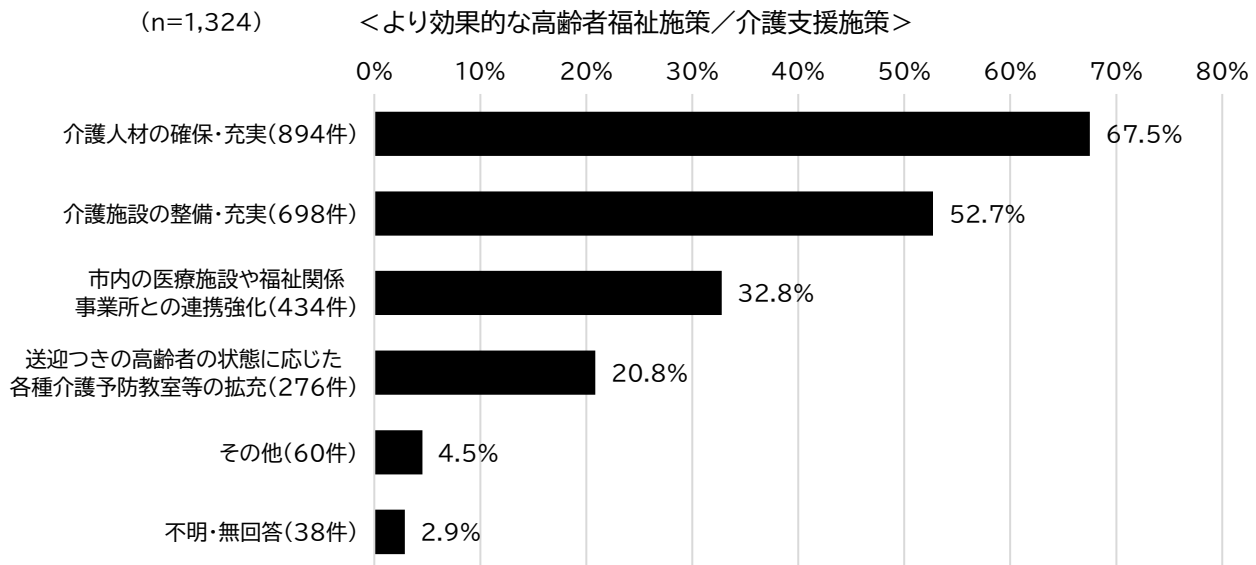
	制度を見直して実施する方がよい	11 件
	制度が複雑なので現金給付希望	9 件
財政・経費に関する問題 (60 件)	事務経費が高すぎて費用対効果が悪い	43 件
	今後高齢者増加で財政圧迫が予想される	17 件
公平性・対象者の問題 (42 件)	対象者限定による効率化	16 件
	高齢者のみではなく全世代を対象とすべき	14 件
	寝たきりの方など使えない高齢者がいて不公平	7 件
	申請制の導入	5 件
子育て・世代間バランス (36 件)	子育て世代への支援を優先すべき	27 件
	現役世代の負担増	9 件
代替案・他用途への要望 (33 件)	バス路線維持など交通インフラ整備を優先	13 件
	介護・医療サービス等の充実に予算を使うべき	9 件
	その他施策に活用すべき	7 件
	制度がわからない	3 件
	買い物弱者への支援	1 件
効果・目的達成の問題 (30 件)	活用されていないケースがある	18 件
	社会参加促進につながっているのか疑問	11 件
	交通費助成のみに使用されていない	1 件

設問 4 より効果的な高齢者福祉施策について

より効果的な高齢者福祉施策として、以下のそれぞれの施策の中で重要なものをお選びください。

(1) 介護支援施策（2 つまで選んでください）

「介護人材の確保・充実」が67.5%で最も多く、次いで「介護施設の整備・充実」52.7%、「市内の医療施設や福祉関係事業所との連携強化」32.8%、「送迎つきの高齢者の状態に応じた各種介護予防教室等の拡充」20.8%となっています。



<その他の記述回答>

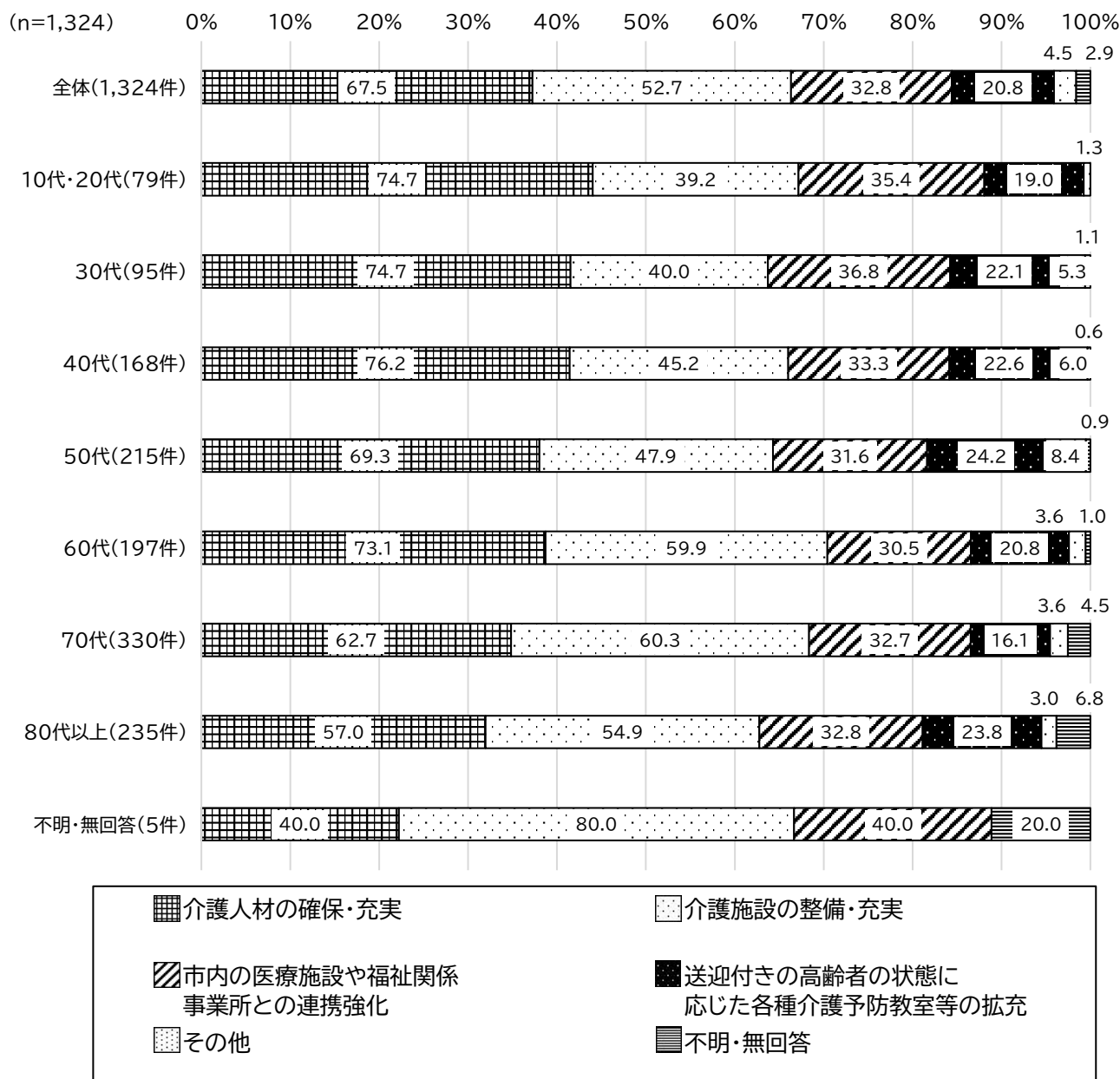
その他の意見の中では、家族介護者への支援、介護予防プログラムに関する意見、介護度や本人の状態に応じた施策の充実を求める意見や子育て、障がいなど他施策の充実を求める意見などが寄せられました。詳細は下表のとおりです。

分類	記述内容	件数
介護サービスや介護費用に関する意見（19 件）	家族介護者への支援	4 件
	介護費用の費用負担軽減策	3 件
	介護職員の処遇改善・給与向上	3 件
	介護サービスの相談・紹介体制の整備	3 件
	介護人材の確保、育成、教育	2 件
	外国人介護人材の受入・日本語教育支援	1 件
	介護認定の柔軟化	1 件
	在宅介護の際のヘルパーなどの訪問サービスの充実	1 件
	利用者が元気になるような施設の整備	1 件
介護予防に関する意見（11 件）	予防教室・体操教室等の介護予防プログラム	4 件
	運動施設・環境の充実による介護予防促進	3 件
	健康寿命維持のための施策	3 件
	栄養指導・健康教育による予防支援	1 件
その他高齢者向け施策に関する意見（8 件）	高齢者個々の状態に合わせた施策の充実	5 件
	高齢者の社会参加促進	2 件
	独居高齢者の見守り・安否確認	1 件

その他施策に関する意見 (11 件)	その他施策の充実	4 件
	公共交通・コミュニティバスの充実	2 件
	地域コミュニティによる支え合い	1 件
	物価高に対応した生活支援	1 件
	通院時の交通費の補助	1 件
	配送サービスなど利用者への直接的な支援	1 件
	奈良市との連携推進	1 件
その他の意見 (10 件)	よくわからない	6 件
	公金を使わないでほしい、不要	2 件
	介護保険を利用していない人へ給付継続による平等性確保	1 件
	介護施設、医療制度の是正	1 件

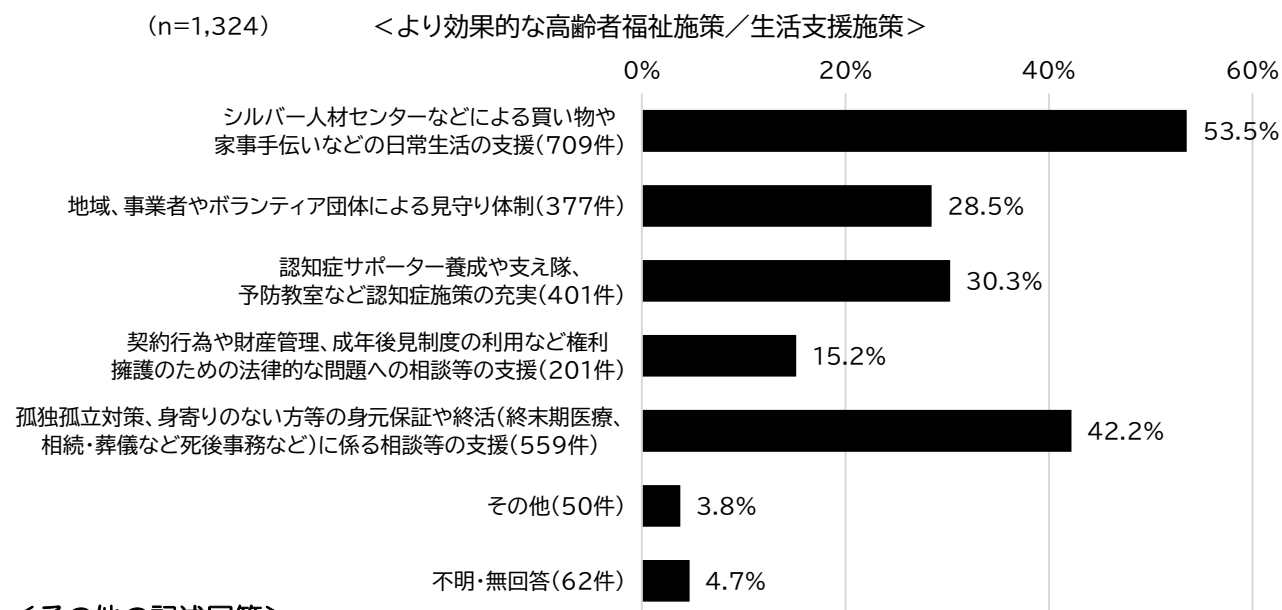
◆年代別

年代別にみると、どの年代でも「介護人材の確保・充実」が最も高いポイントとなっており、次いで「介護施設の整備・充実」、「市内の医療施設や福祉関係事業所との連携強化」の順でポイントが高くなっています。



(2) 生活支援施策（2 つまで選んでください）

「シルバー人材センターなどによる買い物や家事手伝いなどの日常生活の支援」が 53.5%で最も多く、次いで「孤独孤立対策、身寄りのない方等の身元保証や終活（終末期医療、相続・葬儀など死後事務など）に係る相談等の支援」42.2%、「認知症サポーター養成や支援隊、予防教室など認知症施策の充実」30.3%の順となっています。



<その他の記述回答>

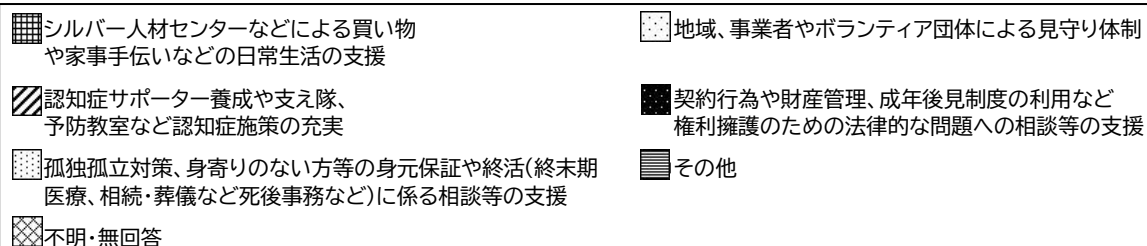
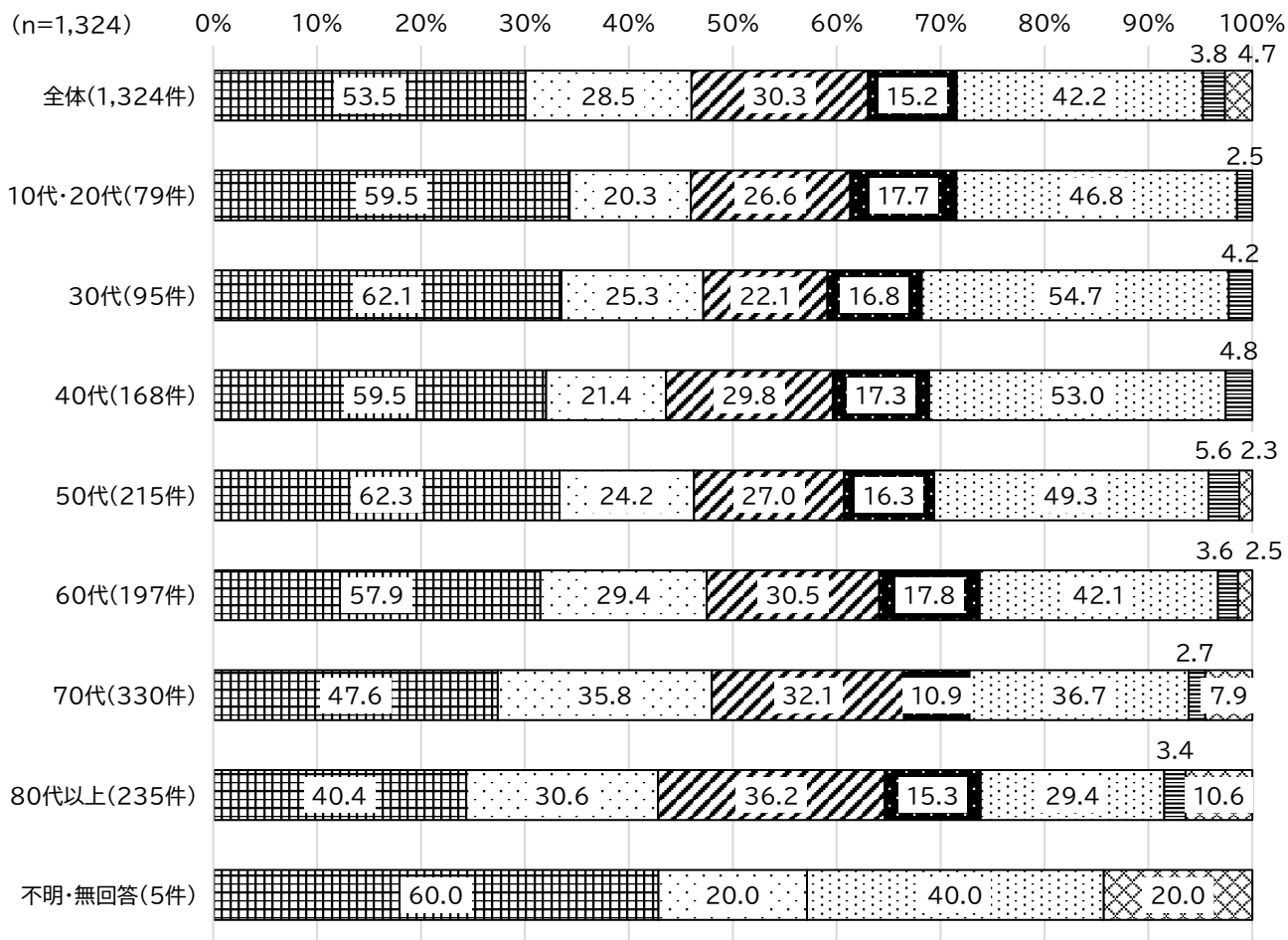
その他では、ボランティアから有償サービスへ支援体制を転換すること、高齢者が交流できる居場所づくりを求める意見、免許返納後の移動手段確保及び介護人材確保のための待遇改善や養成環境の整備などを求める意見が寄せられました。詳細は下表のとおりです。

分類	記述内容	件数
支援体制に関する意見 (13 件)	ボランティアから有償サービスへの転換	3 件
	制度利用をサポートできる窓口、相談場所の整備	2 件
	家族介護者への配慮、支援	2 件
	支援制度の体系化・効率化	1 件
	プロフェッショナルな支援体制整備のための行政からの助成制度の充実	1 件
	包括支援センター機能強化	1 件
	ダブルケア世帯への支援	1 件
	家族が就労中の見守り体制の拡充	1 件
	信頼できる見守り体制の構築への懸念	1 件
生活支援サービスに関する意見 (5 件)	買い物代行・宅配サービス支援	1 件
	生活必需品などの現物支給	1 件
	民間事業者との連携によるサポート	1 件
	送迎サービスの充実	1 件
	自立高齢者向けのサポート支援	1 件
居場所づくりに関する意見 (4 件)	高齢者が交流できる居場所づくり	3 件
	子ども食堂のような地域の人たちが集える場所の充実	1 件
その他施策に関する意見 (14 件)	免許返納後の移動手段確保	3 件
	介護人材確保のための待遇改善や養成環境の整備	3 件
	デジタル化への対応支援	2 件
	子育て支援	1 件

	給付金受取口座への送金	1 件
	ACP の周知	1 件
	シニア版のいこまち宣伝部などシニア向けの情報発信	1 件
	障がい者向け移動支援や利用施設の充実	1 件
	安全安心の市施策を求める意見	1 件
その他の意見（14 件）	わからない	4 件
	現状支援不要	3 件
	不要	2 件
	特になし	2 件
	将来の生活への漠然とした不安や支援の希望	2 件
	利用した訪問サービス事業者への意見	1 件

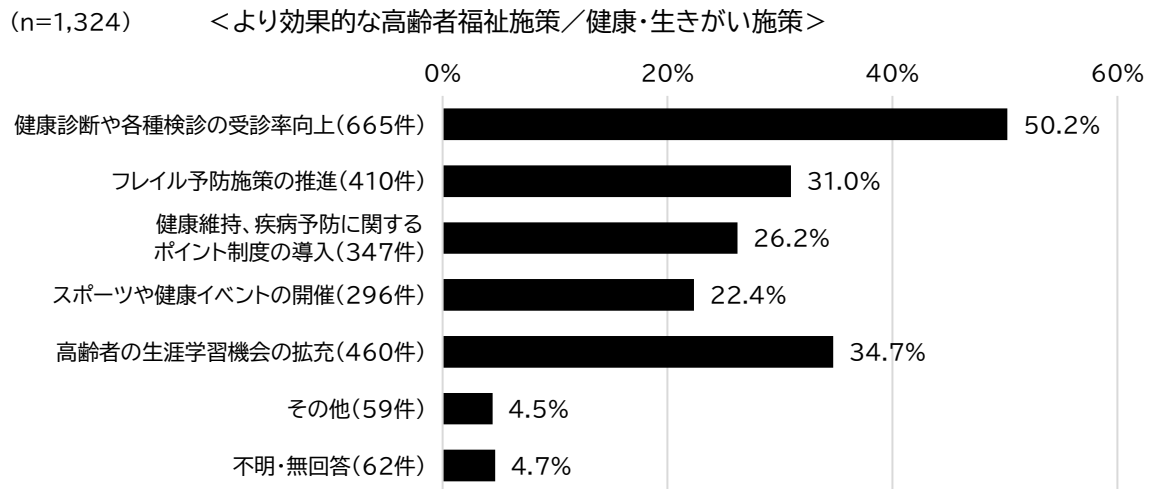
◆年代別

年代別にみると、どの年代でも「シルバー人材センターなどによる買い物や家事手伝いなどの日常生活の支援」が最も高いポイントとなっています。「10代・20代」～「70代」では、「孤独孤立対策、身寄りのない方等の身元保証や終活（終末期医療、相続・葬儀など死後事務など）に係る相談等の支援」のポイントが2番目に高かったですが、「80代以上」では「認知症サポーター養成や支援隊、予防教室など認知症施策の充実」のポイントが2番目に高い結果となりました。



(3) 健康・生きがい施策（2 つまで選んでください）

「健康診断や各種検診の受診率向上」が 50.2%で最も多く、次いで「高齢者の生涯学習機会の拡充」34.7%、「フレイル予防施策の推進」31.0%の順となっています。



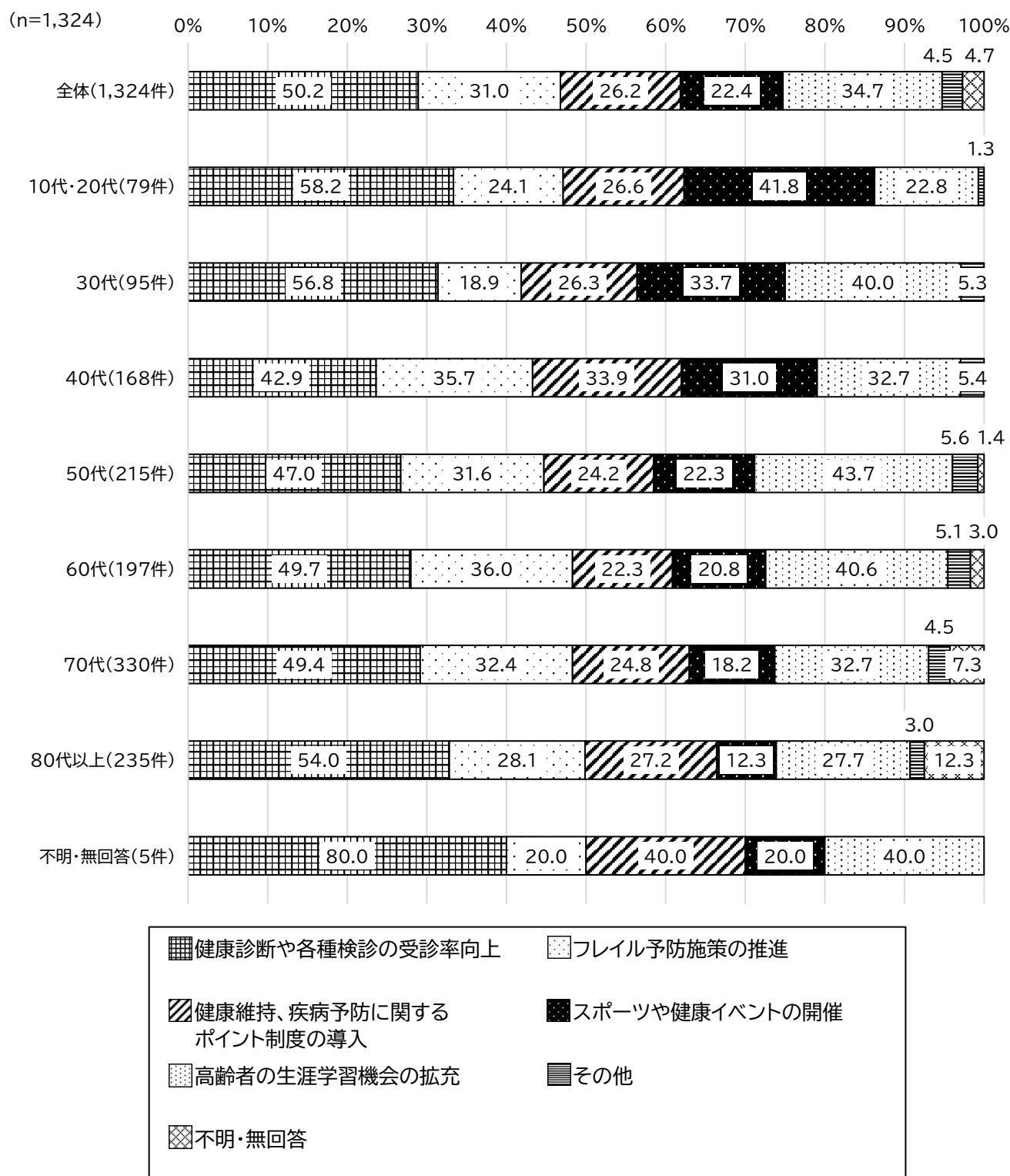
<その他の記述回答>

その他では、身近な地域での交流拠点の創出や高齢者の就労・雇用創出を求める意見などが寄せられました。詳細は下表のとおりです。

分類	記述内容	件数
生きがいづくりに関する意見（17 件）	身近な地域でのイベント開催など交流拠点の創出	10 件
	外出や社会参加のきっかけづくり	5 件
	個々の嗜好にそった各種講義等の開催	2 件
健康増進に関する意見（11 件）	リハビリテーション・介護予防の充実	3 件
	医療費・ワクチン接種の支援	3 件
	検診体制の充実や人間ドック受診率向上のための補助	2 件
	健康ポイント制度についての肯定的な意見	1 件
	食育指導	1 件
	医療制度の是正	1 件
その他施策に関する意見（11 件）	高齢者の就労・雇用機会の創出	6 件
	食事、日用品の供給や適正価格での米の販売	2 件
	年金受給額が少ない高齢者への支援	1 件
	孤立防止のためのコミュニティ拡大	1 件
	子育て支援	1 件
その他の意見（16 件）	公的支援不要	5 件
	特になし	3 件
	その他	2 件
	選択肢なし	1 件
	税金の使途・コスト効率への意見	1 件
	不明	1 件
	現在不自由を感じていない	1 件
	施策決定プロセスに高齢者の参加を求める意見	1 件
	サービス情報の周知・広報強化	1 件

◆年代別

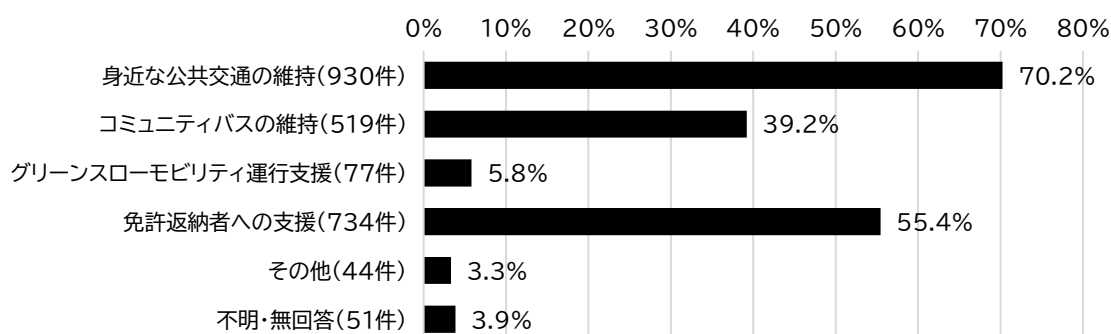
年代別にみると、どの年代でも「健康診断や各種検診の受診率向上」が最も高いポイントとなっています。「30代」「50代」「60代」「70代」では、「高齢者の生涯学習機会の拡充」のポイントが2番目に高かったですが、「10代・20代」では「スポーツや健康イベントの開催」のポイント、「40代」「80代以上」では「フレイル予防施策の推進」のポイントが2番目に高い結果となりました。



(4) 公共交通・移動支援施策（2 つまで選んでください）

「身近な公共交通の維持」が70.2%で最も多く、次いで「免許返納者への支援」55.4%、「コミュニティバスの維持」39.2%の順となっています。

(n=1,324) <より効果的な高齢者福祉施策／公共交通・移動支援施策>



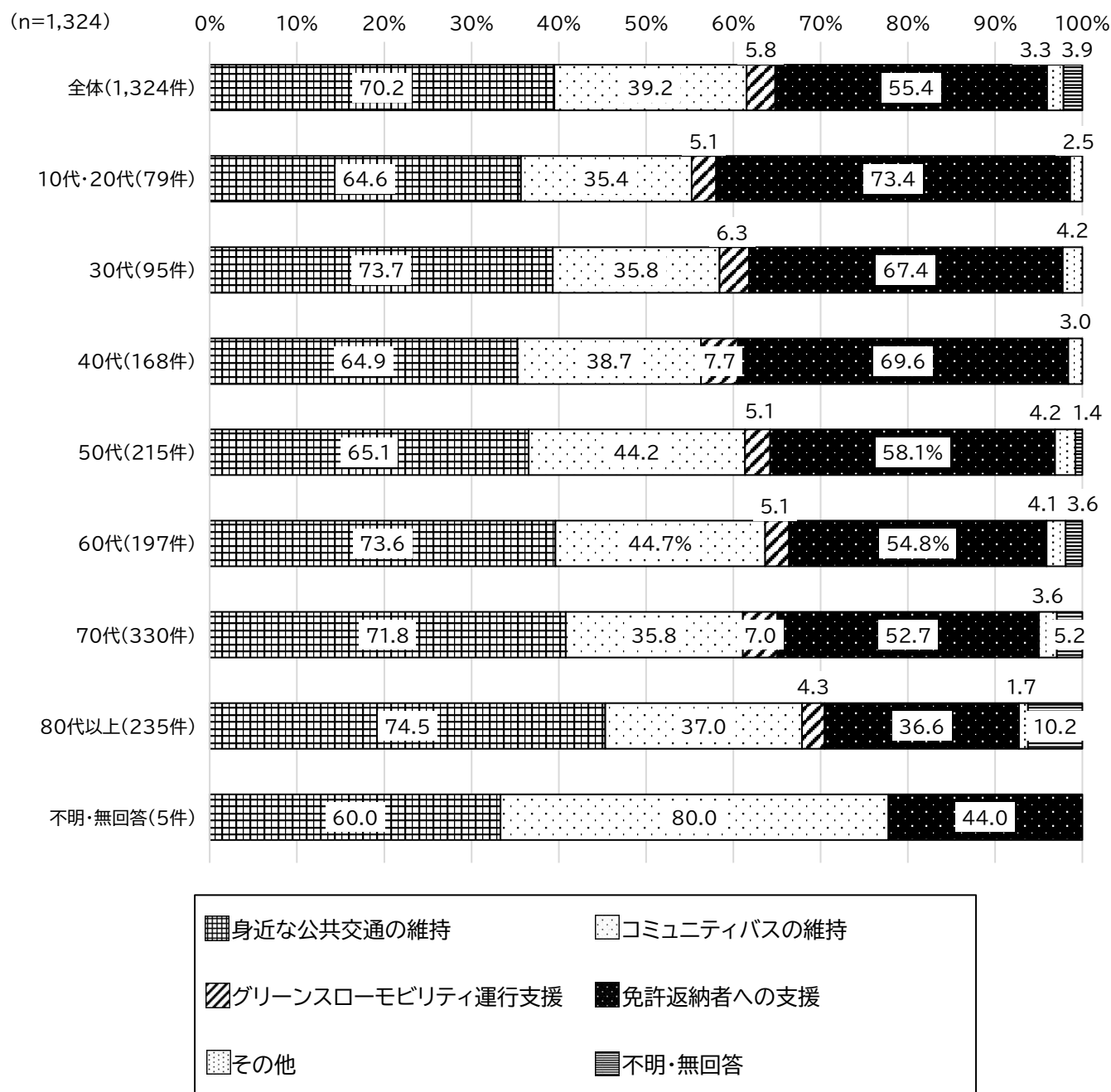
<その他の記述回答>

その他では、コミュニティバス路線拡大や運行方法の改善、小型モビリティ・自動運転技術の活用を求める意見などが寄せられました。詳細は下表のとおりです。

分類	記述内容	件数
公共交通に関する意見 (15 件)	コミュニティバス路線の拡大、運行方法の改善	6 件
	小型モビリティ・自動運転技術の活用	3 件
	デマンド交通・乗合サービスの導入	2 件
	タクシー利用の際の利便性向上	2 件
	バス乗車時の高齢者専用回数券の購入代金の補助	1 件
	介護タクシーの充実	1 件
その他交通施策に関する 意見 (7 件)	交通空白地域への対応	2 件
	高齢者の移動手段の必要性和老々介護の不安	1 件
	バス停までのアクセス改善	1 件
	家族介護者へ送迎にかかる費用の支援	1 件
	緊急時の医療機関への移動方法	1 件
	免許返納後の支援	1 件
インフラ整備に関する意見 (3 件)	歩道やガードレールの整備	2 件
	坂道や階段、道幅の狭い場所の移動手段の支援	1 件
その他施策に関する意見 (4 件)	障がい者支援や子育て、若者支援体制の充実	3 件
	移動図書館	1 件
その他の意見 (10 件)	不要	3 件
	特になし	2 件
	生きいきクーポン券の継続希望	1 件
	不明	1 件
	税金の使途、コスト効率への意見	1 件
	その他	1 件
	きめ細やかな政策の必要性	1 件

◆年代別

年代別にみると、「30代」「50代」「60代」「70代」「80代」では、「身近な公共交通の維持」のポイントが最も高かったですが、「10代・20代」「40代」では「免許返納者への支援」のポイントが最も高い結果となりました。



(5) その他の施策

その他の施策についての記述回答では、293 件の記述回答が得られました。

交通手段確保・移動支援に関する意見が 77 件、コミュニティ・社会参加に関する意見が 50 件、介護・医療支援に関する意見が 35 件寄せられました。以下内訳は下表の通りとなっています。

<その他の記述回答>

分類	記述内容	件数
交通手段確保・移動支援 (77 件)	コミュニティバスの充実・増便	40 件
	タクシー、介護タクシー運賃への補助や拡充	17 件
	免許返納後の移動手段確保	14 件
	バス運賃への補助	4 件
	デマンド交通導入	2 件
コミュニティ・社会参加 (50 件)	高齢者の居場所・交流拠点整備	25 件
	仕事やボランティアなど高齢者の社会参加の場づくり	14 件
	多世代交流の場づくり	8 件
	デジタルを活用したコミュニティの場づくり	3 件
介護・医療支援 (35 件)	介護サービスの充実	14 件
	介護人材確保・待遇改善	9 件
	介護予防につながる支援	4 件
	予防接種への補助	3 件
	健康診断への補助	3 件
	介護用品購入費への補助	1 件
	ACP の周知	1 件
生きいきクーポン券への意見 (24 件)	対象者や支給方法など制度設計の見直し	15 件
	事務経費削減・効率化	8 件
	対象者の拡大	1 件
施設・インフラ整備 (17 件)	道路・歩道のバリアフリー化	6 件
	公共施設の充実や利用料金の減額	4 件
	商業施設の整備	4 件
	生活環境改善を目的とした補助金	3 件
経済的支援 (12 件)	経済的負担の軽減	9 件
	物価高騰対策	3 件
子育て・世代間バランス (9 件)	子育て支援の強化	7 件
	全世代への補助	2 件
その他 (69 件)	高齢者福祉全般や市政運営に関する包括的な意見	20 件
	特になし	16 件
	移動販売・宅配サービス	8 件
	移住したいと思えるような魅力的なまちづくり	5 件
	生きいきクーポン券への肯定的評価	5 件
	アンケートの設問をわかりやすい表現に	4 件
	健康維持や予防につながるポイント制の導入	3 件
	制度がわからない	3 件
	その他の施策に活用すべき	3 件
	生きいきクーポン券の増額	1 件
	サービスの情報提供を	1 件

設問 5 自由意見

その他、「生きいきクーポン券」や高齢者福祉施策についてご意見がありましたらご自由にお書きください。

自由意見については、459 件の回答を得られました。

生きいきクーポン券の改善・変更を求める意見が 157 件、生きいきクーポン券事業の制度の継続、維持を求める意見が 86 件と生きいきクーポン券事業の継続に関する意見が多数寄せられました。以下内訳は下表の通りとなっています。

分類	記述内容	件数
生きいきクーポン券の改善・変更（157 件）	使用可能範囲の拡大や新たな用途追加による利便性向上	58 件
	所得制限設定など、対象者の限定	30 件
	デジタル化やマイナンバー活用による事務経費削減	24 件
	現金支給への変更	12 件
	支給額の増額	9 件
	申請制の導入	9 件
	事業経費や実施方法など事業の見直しを求める意見	9 件
	対象年齢の引き下げなど対象者の拡大	4 件
	使用期間延長	2 件
生きいきクーポン券事業の継続、維持（86 件）	現行制度の継続・維持を強く希望し、高齢者の生活支援として必要性を訴える意見	86 件
制度の代替・関連施策（65 件）	コミュニティバス拡充等の移動支援策	19 件
	地域コミュニティの活性化	17 件
	高齢者の健康維持のための施策を提案する意見	10 件
	介護施設の充実や介護人材確保等の介護支援策	10 件
	社会参加促進のための施策を提案する意見	6 件
	高齢者の見守り体制の充実	3 件
制度の廃止・縮小（37 件）	世代間格差の是正や若年世代への予算配分を優先すべきとする意見	19 件
	制度の完全廃止を主張し、他の施策への予算振り分けを求める意見	18 件
その他（120 件）	高齢者福祉全般や市政運営に関する包括的な意見	49 件
	生きいきクーポン券の制度の認知度向上や情報提供の改善を求める意見	16 件
	生きいきクーポン券が役立っているなど感謝の意見	15 件
	特になし	15 件
	高齢になっても住みやすい、住みたいと思ってもらえる生駒市を望む意見	11 件
	生きいきクーポン券の使いづらさへの意見	4 件
	アンケートの対象者や内容についての意見	3 件
	自己の健康維持に努めるという意思表示	2 件

	減額に対して賛成	1 件
	生きいきクーポン券に馴染みがないという意見	1 件
	受給対象者ではないという意思表示	1 件
	市政について理解を深めたいとの意思表示	1 件
	本来の目的と実際の用途との乖離	1 件

Ⅲ. 調査票

交通費等助成制度（生きいきクーポン券配付事業）及び 高齢者福祉施策のあり方に関する市民意識調査についてのお願い

生駒市は、高齢者の皆様が住みなれた地域で安心して暮らせるよう各種の施策、事業を展開しています。しかし、限られた財源の中で更なる高齢化の進展に対応した効果的な施策を展開するため、交通費等助成制度（生きいきクーポン券配付事業）を含め現行の制度のあり方を考える参考とするために、市民の皆さんにアンケートを行っています。ご協力をお願いいたします。

令和 7 年 4 月

生駒市長 小紫 雅史

このアンケートは、市民の皆さんの中から無作為に選び出した
3,000 人の方にお送りしています。

なお、記入された内容は、アンケートの目的以外には使用いた
しません。

5 月 20 日（火）までに以下のどちらかの方法でご回答ください。

- ①同封の返信用封筒に調査票を入れて投函（切手不要）
- ②スマートフォン等で QR コードを読み込み専用フォームに回答を入力

専用フォーム ▶



記入に際してのお願い

1. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する項目の□の枠の中に☑を入れてください。（ ）の部分や最後の自由意見欄にはご自身のお考えをご記入ください。
2. この調査のお問い合わせは下記までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

生駒市 地域共生社会推進課 支援係
(電話) 74-1111 内線 6070、6071
(E-Mail) kourei@city.ikoma.lg.jp

交通費等助成制度（生きいきクーポン券配付事業）とは・・・

本市は、平成 8 年から高齢者の生きがいくつくりと社会参加の促進を目的として 70 歳以上の高齢者を対象に、電車・ケーブルカー・バス・タクシーの利用等について交通費助成として「生きいきカード」の配付を開始しました。

生きいきカードは、移動に役立つとの声があった一方、寝たきりの人が使えないことや自分で歩ける健康な人にも支給する意義を問う声もあったことから、限られた財源でより効果的な施策に見直すため、意識調査や住民ワークショップの実施、介護保険運営協議会での審議などを経て、平成 29 年から、70 歳以上（平成 29 年～令和 8 年にかけて 2 年おきに 1 歳ずつ 75 歳まで引き上げ）の方を対象に、公共交通機関の利用に加えて、駐車場・駐輪場、公共施設の利用料、介護用品の購入等、対象者が自分の状態像に応じた使い道を選べる「生きいきクーポン券」の配付事業を開始しました。

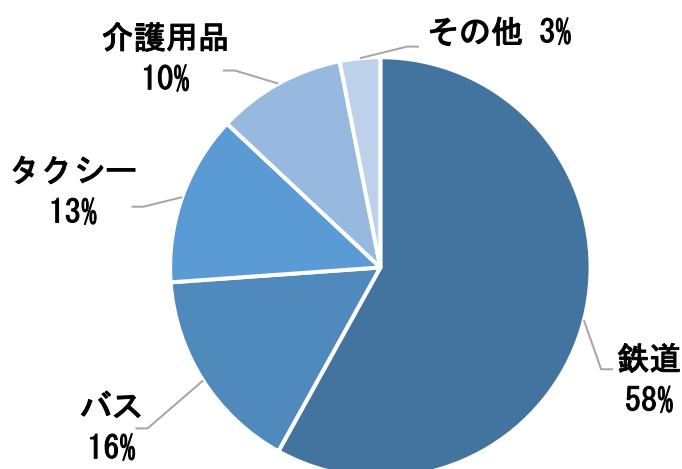
しかしながら、対象年齢の方（75 歳）が 2055 年まで増加していくことや、人件費や原材料費等の増加に伴う事務的経費の増大が見込まれることから、経費を抑えつつより効果的な施策を行うために制度のあり方を考える必要があります。

【現制度の課題】

○使い道に偏りがある

交通系 IC の利用が約 60%を占め、バス、タクシー、介護用品でそれぞれ 10～16%、その他用途は 1%以下と、さまざまなメニューがあるにも関わらず、特定の使い道に偏っています。

生きいきクーポン券の用途別使用割合（令和 5 年度実績）



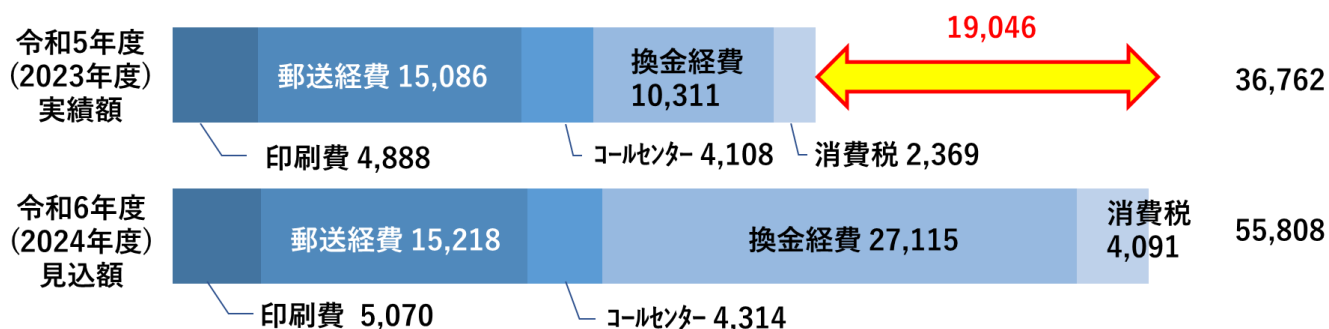
○事務的経費が増大している

制度開始から段階的に対象年齢を引き上げてきた結果、個人に支給されている扶助的経費は見直しどおり推移していますが、令和6年度には総事業費が3億円を超え、その後も同程度の支出が見込まれています。

さらに、印刷・郵送・クーポン換金などの事務的経費は、原材料費や人件費高騰の影響で増大しており、事業費に占める事務的経費の割合が増えています。事務費の割合は今後も年々増えていく見込みです。

事務的経費の比較

(単位：千円)



【制度に対する意見】

■生駒市行政改革推進委員会からの意見

(事務事業見直しに関する意見書 令和元年9月13日)

- 高齢者の生活行動範囲の拡大等を図る目的で始めた事業であるが、現在は、1人10,000円のクーポン券を対象年齢である高齢者に一律に交付し、介護用品の購入に使用できるなど、生活行動範囲の拡大と社会参加の促進につながっているとは言い難く、本来の趣旨から乖離している。
- 交付対象者以外による使用の可能性がある。
- 若い世代が将来高齢者になったとき、現在の高齢者と同じサービスを享受できるのか、世代間格差を考える必要がある。
- 市税の減少と社会保障関係費の増加等による財政状況の悪化が見込まれるのであるから、市は事業の優先順位をしっかりと考えなければならない。高齢者交通費等助成事業を維持することによって、子育て支援などのサービスの質が落ちるようなことがあってはならない。
- 以上の理由から本事業を廃止し、高齢者をはじめとする交通弱者の移動手段をどのように支援していくか、高齢施策に留まらない交通施策を検討すべきである。

■生駒市議会からの意見

- 介護用品は本来目的につながっていない。また、市販品よりも高く利用しないとの声がある。
- 交通系 IC カードは本来目的と齟齬がある。交付対象者以外による使用の可能性はある。
- 事務費の増加・市外流出。
- 移動支援、地域公共交通に特化すべき。
- 申請制にすべき。
- 給付額を半額の 5,000 円に減らし、地域ポイント等への原資にしてはどうか。
- 給付額をもっと増やすべき。

【制度内容の変遷】

- 平成 8 年 生きいきカード配付開始 電車・バスの助成（10,000 円/人）
- 平成 9 年 タクシー追加
- 平成 13 年 15,000 円/人に増額
- 平成 21 年 10,000 円/人に減額、近鉄生駒ケーブル追加
- 平成 27 年 生きいきカードの見直し（住民意識調査、タウンミーティング、
～28 年 ティーミーティング、住民ワークショップの実施、介護保険運営協議会への諮問）
- 平成 29 年 生きいきクーポン配付開始
- 令和 2 年 ICOCA へのチャージメニュー追加



1 回答してくださるあなた自身のことについてお聞きします。

- ## (2) 小学校区

- 小学校区が分からない人は、町名をご記入ください。

(3) 介護認定の有無

- 2 **生きいきクーポン券配付対象者（74歳以上）の人にお聞きします。**

(1) **生きいきクーポン券を、どの程度利用していますか。**

- (2) 質問2の(1)で①と②と答えた人にお聞きします。

☐①電車 ☐②タクシー ☐③バス (コミュニティバスを含む)

- 34

(3) 質問2の(2)で①～③と答えた人にお聞きします。公共交通機関を利用した際の主な行き先はどちらですか。

- ☐①市内 ☐②奈良市内 ☐③大阪府内 ☐④奈良市以外の奈良県内
☐⑤その他 ()

(4) 質問2の(2)で①～③と答えた人にお聞きします。公共交通機関を利用した主な目的はなんですか。

- ☐①買い物 ☐②医療機関への通院 ☐③仕事 ☐④趣味・娯楽
☐⑤習い事 ☐⑥運動 ☐⑦その他 ()

(5) 質問2の(1)で③を選んだ人にお聞きします。その理由はなぜですか。
(複数回答可)

- ☐①金銭的に余裕があるから。
☐②入院や施設入所、介護サービスを受けており利用できる状態にないから。
☐③魅力的な使い道がないから。
☐④クーポン券を使用するのが面倒だから。
☐⑤市の財政支出を減らしたいから。
☐⑥その他 ()

(6) 「生きいきクーポン券」はどのようなことに役立っていると思いますか。
(複数回答可)

- ☐①社会参加の促進
☐②生きがいづくり
☐③健康増進・介護予防
☐④介護者の経済的負担軽減
☐⑤交通費等生活費の負担軽減
☐⑥公共交通機関の利用者数の確保
☐⑦高齢者の交通安全
☐⑧上記には該当しないが役には立っている
(内容)
☐⑨特に役に立っていると思わない

(7) 「生きいきクーポン券」を使用する上での課題を教えてください。
(複数回答可)

- ☐①クーポン券が使いにくい。
☐②使える用途が少ない。
☐③ご使用ガイドが見にくい。
☐④介護用品が実店舗で購入できない。
☐⑤交通系 IC カードをチャージできる場所が少ない。
☐⑥特にない。
☐⑦その他 ()

3 全ての人にお聞きします。

「生きいきクーポン券」についてあなたの考えをご記入ください。

☐①継続すべきである。

その理由 ()

☐②減額しても継続すべきである。

その理由 ()

☐③廃止すべきである。

その理由 ()

4 全ての人にお聞きします。

今後の高齢者福祉施策として、以下のそれぞれの施策の中で重要なものをお選びください。

(1) 介護支援施策 (2つまで選んでください。)

☐①介護人材の確保・充実

☐②介護施設の整備・充実

☐③市内の医療施設や福祉関係事業所との連携強化

☐④送迎つきの高齢者の状態に応じた各種介護予防教室等の拡充

☐⑤その他

()

(2) 生活支援施策 (2つまで選んでください。)

☐①シルバー人材センターなどによる買い物や家事手伝いなどの日常生活の支援

☐②地域、事業者やボランティア団体による見守り体制

☐③認知症サポーター養成や支え隊、予防教室など認知症施策の充実

☐④契約行為や財産管理、成年後見制度の利用など権利擁護のための法律的な問題への相談等の支援

☐⑤孤独孤立対策、身寄りのない方等の身元保証や終活（終末期医療、相続・葬儀など死後事務など）に係る相談等の支援

☐⑥その他 ()

(3) 健康・生きがい施策 (2つまで選んでください。)

☐①健康診断や各種検診の受診率向上

☐②フレイル予防施策の推進

☐③健康維持、疾病予防に関するポイント制度の導入

☐④スポーツや健康イベントの開催

☐⑤高齢者の生涯学習機会の拡充

☐⑥その他 ()

(4) 公共交通・移動支援施策（2つまで選んでください。）

- ☐①身近な公共交通の維持
☐②コミュニティバスの維持
☐③グリーンスローモビリティ運行支援
☐④免許返納者への支援
☐⑤その他（ ）

(5) その他の施策

お考えがあれば、ご記入ください。

--

5 その他、「生きいきクーポン券」や高齢者福祉施策についてご意見がありましたらご自由にご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。5月20日（火）までに、調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、ご返送ください。